

投票理由

死刑制度廃止の是非

賛成

執行する人の負う心の傷、、罰とは言え法が殺人を犯すことに賛成はできません。

刑務所で存分に反省し、苦しんでほしい

ドストエフスキイ、加賀乙彦、丸山健二、S・キングを読めば分かるし、ダンサー・イン・ザ・ダークをみれば分かる。国家命令で新たな殺人をうむべきじゃないし、あらかじめ死を宣告される死は囚人にとっても残酷極まりないし、冤罪の可能性だってあまりにも恐ろしい。死刑は廃止し、終身刑で良いかと。

死刑制度は国家による殺人である。冤罪うんぬんの前にそもそも建付けがおかしい。また、死刑は犯罪の抑止力にならない。前時代的で人権無視の制度。

人命尊重のため、犯罪者の人権を尊重するようにしたい。えん罪が起きるので。

条件付き賛成 終身刑を導入することが条件（無期懲役ではない）

死刑の執行をする刑務官の負担が重いから。また、袴田さんの事件のように、現実に検察は間違えるから。

誤審の可能性と生きている間に何度も何度も自身のしたことを振り返る時間を持つ。恩赦で終身刑が軽減されることは反対。

終身刑なり、懲役 200 年なりで、生きて自分のしたことを考えた方がより、苦痛だと思うから。

冤罪の可能性、及び犯罪の抑止力にならない その代わり、懲役 100 年、200 年も可能にするべき

根本的には間違うから

死刑を執行する職員の精神的、身体的負担が多大である。執行職員の人権を守るために。裁くのは人であり、誤って、または意図的に冤罪が生まれる可能性がある。再審のハードルも高いまま。実際に検察の捏造で生まれた冤罪（袴田事件、大川原化工機事件など）に対して、検察自体が原因調査や情報公開、再発防止対策も明確化せずにいることも問題。

捜査機関による証拠捏造、証言の強制などが多くなる 加えて、間違いを完全に排除できない以上ロールバックのきかない死刑は不適切

死刑制度では犯罪を抑止できないという客観的事実。

冤罪だった場合の補償ができないから

私は「死刑制度の廃止に賛成」します。その理由はいくつかあります。それらのことを以下に述べたいと思います。まず第 1 の理由は、死刑は「合法的に生命を奪える制度」であるということです。日常生活では、誰かの生命を誰かが奪うことなど到底許されることありません。しかし、「凶悪な犯罪を犯した人物に対する処罰として、その生命を奪うことも許される」という考え方に基づいて「死刑制度」あるのだと思います。ところが、「戦争状態」ではどうでしょう。「戦争状態」では、戦っている相手の生命をより多く奪った方が（あるいは戦闘不能になるほどの傷を負わせた方が）よいことだとされてしまいます。これは「人の生命を奪うことは場合によって許される」という意味において、「死刑制度」と通じるものがあります。しかも、戦前の日本のように、その事実に思いが至らない人々が多くなることによって、「戦争状態」が保たれてしまうのだと思います。この「思いが至らない」状態ができてしまうこともとても重要だと考えています。次に、「冤罪」の問題があります。「死刑は合法」ですから、「凶悪な犯罪を犯した人間が死刑になって当然」と一般的には考えられていると思われます。ところが、袴田巖さんの事件のように「冤罪」で死刑が確定してしまった例が実際にはあります。ここにも、「警察の捜査や裁判所の判断にも間違があるかもしれない」ということに「思いが至らない」という状況があります。さらに、袴田さんの「冤罪」が認められるまでには、「再審制度」の「法的不備」のため、60 年間近い歳月を要しました。そして死刑囚として収監されていた袴田さんは心を病んでしまいました。また、資料動画の中に、死刑に立ち会った刑

務官の方が、「そのことを 3 日 3 晩夢に見る」という件がありました。死刑にされた人間が、「冤罪」ではなく、本当に凶悪な犯罪を犯した人物だとわかっていても、やはり、「自分は人の生命を奪ってしまった場所に居た」という現実は、人間にとては辛いものがあるでしょう。人間とはそういう生き物です。情があるのです。だから人として生きていられるのです。心がない機械ではありません。死刑執行の決定をする法務大臣もその印を押す時に躊躇する、と資料動画では紹介されていました。私はそれも当然だと思いました。たとえ死刑囚であったとしても、自分(法務大臣)が印を押してしまえば、その死刑囚の生命は奪われてしまうのです。そのことに思いが至ってしまうのだから躊躇するのだと思います。また、「死刑の宣告は当日の 1~2 時間前という判断が合憲」であるという裁判所の判断が示された資料動画もありました。国側の当日告知の理由は「死刑囚の心情の安定を害さないようにするため」だそうです。死刑囚はそれが「冤罪」でない限り、「いつかは自分は死刑になる(生命を奪われる)」と、死刑判決が下された時に理解していると思います。「自分は自分の犯した罪を償わなければならぬ」とわかっていると思います。しかし、だからと言って「あなたは 1~2 時間後には死刑です」と告げられた時に、誰もが全く動搖しないでしょうか。この資料動画の前半の一般の方へのインタビューの中に、こう話しておられた方がいました。「人間には覚悟がある。家族との対面(多分別れの挨拶だと思います)がある。」「覚悟」を持ったり、「家族との対面」を果たすためには、ある程度の時間が必要だと私も考えます。私は、「死刑制度」に代えて、凶悪な犯罪を犯した人物には、「無期懲役」を課するべきだと思います。現在、刑務所などの刑事施設では、「刑務作業」が実施されています。「無期懲役者」を含めて、懲役受刑者には、例えば身体障がい者が必要としている装具製作などを通して、社会全体に貢献するような作業制度を整えるとよいと思います。「生命を奪う」のではなく、刑期が終わるまで、生き続けて社会全体に少しでも貢献することが真に「罪を償う」ことになるのではないでしょうか。ここで、「死刑制度」について、観点を変えて私の意見を述べてみます。「死刑制度廃止反対」の主張の第 1 は、「被害者や家族の心情から必要である」でした。私も、この主張はよくわかります。私にも家族がいます。もし家族の誰かが殺害されてしまったら、犯人のことを「殺してやりたい」ほど憎むと思います。しかし、犯人が死刑になったとしても、遺族の「自分にとって大切な人を失った」という「喪失感」は一生埋めることはできません。この場合むしろ必要なのは、遺族の「喪失感」に対する「心の面のケア」だと思います。このケアこそ「法的制度」として整えるべきではないでしょうか。従って、「死刑だけでは全ての問題は全て解決はしない」と私は思います。「死刑制度がないと凶悪な犯罪が増える」という主張もありました。けれども、日本には「死刑制度」があるにもかかわらず、凶悪な犯罪、究極的には「殺人」は実際には起きています。つまり、「死刑制度は凶悪な犯罪の抑止にはなっていない」のです。「殺人」を抑止するためには、「犯人は死刑になるというリスクを背負ってまで、なぜそのような犯罪を犯してしまったのか」という「犯罪の動機」に思いを致すことが大切だと思います。法務省公表の資料(<https://www.moj.go.jp/content/000112398.pdf>)によると、平成 23 年(2011 年)の殺人検挙件数は 936 件です。また、同資料の「被疑者と被害者のとの関係別検挙件数・面識率・親族率」を見ると、同年検挙数のうち、「面識なし」が最も少なくて 114 件、「面識あり」が 339 件、「親族」が最も多くて 489 件となっています。昭和 54 年(1979 年)からの推移を見ると、検挙数は年によって違いがあるものの、この 3 つの観点による傾向には大きな変化はありません。そして「面識あり」とは「友人・知人、職場関係者、交際相手等」という注釈も同資料にはついています。つまり、全く関係のない第 3 者による殺人件数は全体から見ると少ないのです。むしろ濃密な人間関係にある「親族や友人、交際相手による殺人」が多いことこそが日本の現実だと言ってよいと思います。さらに同資料の「殺人 主たる被害者との関係と動機(平成 22 年版犯罪白書特別調査)」では、「憤まん・激情 報復・怨恨 痴情・異性関係トラブル」の合計数が総数 238 件のうち半数を超える 149 件を占めています。これらの資料からは、「殺人」とは日本において、いわゆる「計画的・愉快班的な犯罪」は少なく、むしろ「濃密な関係にある人と人との間で、何らかのトラブルが生じた結果起きてしまった犯罪」だと言えると思います。ということは、「殺人の抑止」のためには、「死刑制度」よりも、むしろ「濃密な人間関係間でのトラブルの解消」の仕組みを「法的制度」としてつくることを目指すべきではない

でしょうか。また、一方で「猟奇的な殺人」を犯してしまう人物もいます。『週刊文春』11月21号では、「2004年に岡山県津山市で小学校3年生の女児を殺害したとして、2018年に逮捕され、2023年に無期懲役の判決が確定して服役中の45歳の男性」が、兵庫県内の2件の未解決事件への関与を認めており、「今年11月7日、同県たつの市で2006年9月に起きた小学4年生の女児に対する殺人未遂の容疑で兵庫県警がこの男性を逮捕した」旨の報道がなされていました。この件は、最近全国的なニュースになりましたので、ご存知の方も多いと思います。そして『週刊文春』は、この男性について、さらに次のように報道しています。「1999年～2000年にかけて、兵庫県西部の各地で、当時9～13歳への少女の腹を殴ったり下着に手を入れたりといった行為をし、うち6件が裏付けられ逮捕され、執行猶予判決を受けて釈放された。」後に「2004年、岡山県津山市で女児を殺害。」しかしこの事件はその後14年に渡って解決せず、男性は野放しのままとなり、「2009年にまたも女児の腹を殴るなどして逮捕、実刑判決を受けて服役した」ということです。そして現在も2004年の女児殺害事件により再度服役中となっています。私の知人の精神福祉士である方は、この男性は「小児性愛者」であり、「逮捕・収監などの刑罰よりも治療プログラムと服薬が必要です」と話しておられました。なぜなら、このように何らかの精神的な病がある人物は、逮捕・収監をしても、釈放後また同じような犯罪を繰り返すからです。報道の内容がその事実を証明しています。ですから、このような精神的な病のある人物（子どもを含む）が発見された場合、治療プログラムなどの医療的な対応を「法的に整備」する必要があると私は考えます。このケースを見ても、「死刑は凶悪な犯罪の抑止にならない」ことはおわかりいただけたと思います。

趣旨としては2点ある。1点目として犯した犯罪の償いに対し「死」が極刑であるとは思えないから。2点目が重要で、冤罪が、実際に起こっている状況に於いて、まさに「取り返しのつかない」刑であるから。

残酷な刑罰。失効後に冤罪が明らかになった場合取り返しがつかない。

ヒトは間違うものだから、冤罪も意図的に作られるから、簡単に死なせるのでは楽過ぎるから、罪を背負って後悔して苦しみながら生きる方が辛いのではないかと思うから

袴田さん事件のような冤罪がある事が一番の理由。死刑制度で凶悪犯罪は無くなっていない。死刑の代わりに釈放されない終身刑を作るべき。税金は財源ではない。必要な所にお金は使われるべき。治安を守るため。不労所得で金儲けの方が無駄金。

袴田さんの冤罪を見て判る様に、人が人を裁くのは難しいし間違がある。間違える事を前提で制度を構えるべき。

冤罪を防ぐことが重要。

殺人が罪であるならばなぜ国家なら殺人をしても良いのか？

生涯、罪を償うべきだ。（社会復帰も可能）

いのちを奪う法は認められない

たたし、絶対釈放のない無期懲役とすることが条件

罰よりも支援が必要。

死刑を廃止する代わりに罪状をその最高を取り上げるのではなく、累積させてその合計とし途中で減免しないようにする。

冤罪と判断される件が、しかも複数あり得ることが明らかになってきている以上、死刑という刑を設定しておける能力が無い、と考えざるを得ないから。

既に死刑確定囚の再審無罪判決が5件も出ており執行された疑いのある事件もある。死刑執行担当者は意に反する苦役を強いられる。

冤罪が起きた場合に取り戻すことができないため

国家権力が人命を奪うことには問題がある。冤罪の場合取り返しのつかないことになる。
誰も人を殺す権利は持たないから
犯罪の責任は我々主権者である国民一人一人にあるので、死刑という人の命を奪う刑を執行することで権力の下での殺人というのを許容できないから。
賛成論の論拠に賛成する
冤罪の可能性と共に、国家にどのような理由であれ「殺人」の行使を認めることは、民主主義社会における決定的な矛盾だと思うから。
冤罪の可能性が常にあり死刑執行後に冤罪が判明した場合取り返しがつかない。
冤罪だった場合、取り返しがつかない
冤罪の危険性 死刑制度が犯罪の抑止になると思わない 死刑は国による殺人であり、いかなる時も殺人は肯定したらいけないと思うから
いかなる人間も他人の生死を決定する権利はない。
人が人を殺すのは殺人です。罪を償うためならば、死刑ではなく、生きて償わせるべきです。
執行を担当する人にとっても過酷。
国家が生殺与奪の権利を持つというような制度がそもそもおかしい。
社会が社会の力を用いて人を殺しても良いと言う制度が存在するとすれば、殺人も究極の罪ではなく、相対的な罪と言うことになってしまう。人は殺してはいけない。それを言うには、死刑がなくならなければ、矛盾ではないだろうか。また、被害者や社会への罪については、別のアプローチがあるだろうし、それを見つけていくのが進歩と言うものではないだろうか。
これまでにも何度も冤罪による死刑判決と執行が問題になっている。何より死をもって罪を償うことはできない。人生をかけて罪を償わせるのであれば終身刑が妥当であると考える。
仇討ちを許して欲しい
何人であっても殺人をしてはならず、それは国家とて同様である。「死刑制度」とは国権の発露そのものである。
死刑制度は人権を侵害するものと考えます。被害者遺族などがたとえ死刑を望んでいたとしても執行することでその傷が癒やされることもないですし、受刑者も罪を償うという観点から考えても妥当とは言えないと考えます。
厳罰を課すことに疑問を抱いています。
終身刑を取り入れ刑務所での仕事に従事し得た金は遺族に賠償金として支払い続けることが望ましいと考えます
冤罪が次々と明らかになっている今、取り返しのつかない「死刑」は廃止すべき。生涯罰を受け続けることは、死刑と同等またはそれ以上に重い罰だと考えるから。判決を下す裁判官や刑の執行人に重い負担を強いているから。
袴田さんのような冤罪が繰り返されていることから、絶対に廃止すべきだ。同時に警察検察による暴力的な取り調べ、ましてや、「殺してもいいのにお前が殺したと言え」とリンチするからこそ、冤罪・死刑が生じるのであって、即時死刑廃止と取り調べの公開等の改善を求めるたい。
冤罪は0にはできない。死刑は犯罪抑止にならない。全ての人間には可能性があるから。
裁判官も間違うことある、過去の冤罪事件をみれば明らかである。死刑は国家による殺人である。
人を何人殺したから死刑とか子供を虐待し殺したと子供が対象だから死刑と、現状は死刑に至る内容も曖昧だ

と感じることから、自分の意見としては軽犯罪だとしても何回くり返し実施してしまったかという再犯率で決めればいいと思う。そして、冤罪が多いからというのはまた別の話であり、そもそも現状の警察・検察などの取り締まる側の問題で勉強ができるだけの一部のエリートといわれるボンクラ達が牛耳っているから冤罪が発生するのであって、まずはそこからメスを入れ改善に取り組み冤罪が発生しないような制度・仕組みを確立することが先決であり、そこを徹底的に改善した後に再度この件を議論したい。

冤罪が絶対無いとは言えないこと。最高刑には終身刑(仮釈放無し)が適当。

警察、検察の強引で恣意的な取り調べが行われていることが分かっている中で、冤罪のリスクは無視できない。また犯罪に至る要因は障害や生育環境などが大きい。つまり個人よりも社会の責任が大きいことは明らかである。罪を犯した人間と犯していない人間との間に大きな差はなく、たまたま罪を犯さざるをえない因子が少なかつただけである。以上のことから、市民の感情や国家の決定で一人間の生死を決める権利はわたしたちにないと考える。

事件の本質的な理由について、時間をかけて調査や国民へ公開されることなく突然死刑が実行されている。

犯罪抑止にはならない 被害者心情は理解できるがだからと言って国に殺させるのとは違う

人が人を殺す権利は、誰にもない。

ありとあらゆる殺人に反対だから。

死刑になれば、遺族の想いを受け止める事も罪と向き合う事もできない。

国家による殺人は許されない。

冤罪が必ずある。終身刑でいい。

冤罪がある以上死刑は廃止すべき

冤罪がありえる以上、取り返しのつかない死刑はやめるべき

被害者らの地球よりも重い命を奪ったからといって、その後に加害者の地球よりも重いはずの命を奪うことは許されないと考えるから。基本的に廃止論に立つが、一点ちゅうちょすることは、被害者感情である。

常に冤罪の危険性を孕むから

人の命を奪う判断は不可能。誤審は取り返しつかない。本来刑罰よりも、犯罪の原因の公知と防犯対策が重要。

人が人を殺す殺人であるため。生きて生涯をかけて罪を償うべき。

死刑は殺人だから

生きている間ずっと罪を償えばいい。

死罪として別の殺人が合法化される矛盾は許されない。もし完全に冤罪が無くなつたとしても同じこと。人を殺めるほどに精神が歪んでしまった人に必要なのは罰ではなく「治療」であり「ケア」だと思っている。社会の歪みでもある精神の崩壊の結果を、個人だけの責任にして責めてよいのか。殺人者として生まれる赤ちゃんがいるのか！？NO でしょ。

殺人は重罪であるのに、国家が刑罰としてそれを行うことは矛盾している。警察、検察などは、証拠の捏造などを行ったり、検察が再審に反対したり、公的権力として公正でないことが多い。過去に無実の罪で死刑になった人も複数いると考えられる。死刑制度が正しいのなら、無実の人を何人も殺したであろう国家こそを死刑に、つまりなくすべきという論理になる。国家をなくすのは適当ではないから、死刑制度の方をなくすべきと考える。

どんな人間もいはずれは死にます。ですので「死」そのものが罪の償いになるとは考えません。死刑は実は最も簡単な償い方法かもしれません。死刑は廃止し、殺人及び重罪を犯した人間には「終身刑」を設定して仮釈放無し、

及び厳重監視の上被害者への償いを一生かけて行わせるような刑法の改正を望みます。
世界の趨勢
やはり袴田事件を考えたら死刑は反対です。それに昨今あったさまざまな事件でも検察が一般国民のための組織ではないんではないかと思われるような行動や言動が目立つような気がします。検察の捏造ってキーワードもここまで多い国で死刑は廃止すべきです。
人が人を裁く限り間違いは皆無ではない。いかなる理由があれ、人の命を人が殺めるのは残酷である。
人を殺してはいけないから
袴田事件などの冤罪事件の支援に 30 年以上かかわっています。それらが指し示している通り冤罪で死刑なれば償いようもありません。また、死刑を見越して凶悪犯罪を犯す事犯もあり、死刑制度は抑止効果や処罰感情に報いることに応えてないものと受け止めます。
国家に人を殺す権利はない
人が人を殺すことはいかなる理由であっても基本的に同意できない。冤罪など司法も間違えることもある。
誤判や無実の罪の時、取り返しがつかない
警察による証拠捏造や自白強要が存在し、検察もそれに加担する状況です。そういうことがなくても間違いは起こります。死刑が執行されれば取り返しがつきません。裁判員裁判の裁判員にとって死刑判決に携わることは重大な精神的負担ですし、死刑執行をさせられる刑務官の精神的負担も重大です。何より国が人を殺すことの問題。オウム真理教の全容解明(政府与党とオウム真理教の関係等など)は一切できぬまま、政府は一斉に幹部の死刑執行を行いました。死刑執行によって国による証拠隠滅が可能。 死刑制度があるからこそ死刑になることを目的とした殺人事件が起こっています。
死刑は殺人と同じだから
判決に間違いがある場合、取り返しがつかない。実際に死刑執行する方に精神的負担を負わせる事の、国民の責任が意識されていない。無期や終身の刑期の方が、より辛く深い償いとなるのではないかと考える。
(現行法で)死刑になるような重罪人にも、皆と同じくこの世に生まれた時から温もりがあります。それが普遍的な人権だと思うのです。重罪人なら殺してやむなしという制度・考えを、私は飲み込むことはできません。
凶悪犯罪をした人の中には『誰でも良かった。死刑になりたかった』と、語る加害者がいます。死刑になったら、それは加害者の身勝手な欲望を叶えてしまうのではないか。また、反対の意見での「被害者の遺族が可哀想」というが、今井一さん、私はこの意見に疑問を感じずにはいられません。確かに、命を奪われた被害者の遺族は辛い。これからも辛く生きていかなくちゃいけない。でも、反対して死刑に賛同する人たちは、被害者のためにではなく、加害者をただ死刑にして欲望を満たしたいだけじゃないか、と思うのです。加害者に過激に誹謗中傷する人たちは、被害者のためにどんなことをしてのしようか?「可哀想だ、可哀想だ」と語るだけ。被害者的心を癒やすために何もしておらず、ただ加害者叩きだけ。そして、加害者が死刑になったら、加害者叩きした人はそれで自己満足して終了…被害者ケアは? 今井一さん、私の考えは間違ってるでしょうか? 加害者には罪の意識を気づかせて、一生死ぬまで被害者のために命を償うために何かをするのが大事でしょう。それに「死刑」というのはれっきとした人権侵害です。それに再犯が多いのは社会や法律のせいだと。そもそも、この国は加害者に優しく、被害者や弱者に冷たい。反対の人たちはそのことくらい本気で考えたらどうか? 私にはそう思わずにはいられません。30 代の私からの意見でした。
人権侵害の恐れがあるため。
そもそも人が人を殺すことにどんな理由があれ反対です。またこの国の検察・司法を信頼しておりません。まずはそこを徹底してからの議論だと思いますが、制度として人を殺すことが合法になることを容認できません。

誤審・冤罪が防ぎきれない。凶悪犯罪については終身刑とするなど刑期の長さによる量刑で判断すればよい。
別な意味で殺人行為であるし、現在の司法制度では、冤罪の可能性があることが大いにしてあるため。
いくら残虐な殺人犯でも、死刑で人を殺しても良いとは思わない。死刑判決を行った裁判官、処刑執行者的心情はいかがなものかと苦しくなる。
終身刑を導入する前提です。検察・警察は、時として大きな過ちを犯しながら、誰も罰せられない。袴田事件などを考えれば、死刑制度は止めるべきだと思います。
死刑の代わりに無期懲役を行う リセットを許さない
どんな理由であろうと、人が人の命を絶つことに恐怖を感じる。
冤罪は論外としても、人間が裁判を行う以上、誤審の可能性は排除できない。どんな場合であれ、国家が人の命を奪うことを合法化してはいけない。
犯罪者が死刑になったとしても被害者遺族の心が癒されるわけではない
日本の警察・検察は犯人にしようと決めたら、長時間拘束・尋問で睡眠時間を短時間にして精神混乱を起こし、自白に追い込む捜査を続けている。人権破壊で死刑判決になった人が多い。
人が人を裁く事に置いて完璧では無いと思うから。
被害者となった方の思いに共感できないわけではない。が、冤罪と言うこともあるわけだ。単純に死には死をとはいかないと思う。
死刑廃止論の最大の主張は「冤罪の可能性」である。人が裁く以上、間違がある。刑を執行した後、冤罪だったことが立証されても、もう遅い！
人を殺すことを正当化することはできないため。死刑制度がある限り国として矛盾を抱えた状態であると思う。
国家権力による殺人であることと、冤罪の場合取り返しがつかない。
①冤罪の可能性があること②国家権力により命を奪うことは許されない③死刑囚の中には幼少期から過酷な虐待や成育環境にさらされた者もあり、社会全体で支えられなかつた責任もある。
死刑は国(政府?)の犯罪だと思います。法律が認めているならその法律を変えて終身刑にするか、病気があるならそれを治療すべきだと思います。
冤罪等がなくならない状況を考えると死刑制度を維持することは難しいと感じます。ただ、被害者家族の感情を考慮すれば、死刑やむなしとも思うが、捜査方法や取調べ方法の改善がない限りは廃止すべきではないだろうか。維持する場合には、捜査方法や取調べ状況の開示が必要ではないかと思う。
たくさんの無実の人たちが死刑になってきた。
死刑制度のディベートの為、人権団体政治家学者等の賛否両方へ取材したが、量刑基準に明確な線を引くことは不可能であり、また、冤罪のリスクが排除できないと考えたため
端的に、只今の日本の死刑制度は「基本的人権の侵害」と思うからです。
冤罪の可能性を考えると、死刑は取り返しがつかない。
死刑は犯罪の抑止力にならないと考えている
権力側が殺人することを許して良いのかという問題。と同時に日本は冤罪天国。死刑制度は冤罪ゼロを実現してから論ずるべき。
死刑は冤罪の場合取り返しがつかない刑罰である。死刑に関する情報が全く開示されていない現況では賛否を問う世論調査は意味がない。
死刑は残酷な制度だから。生涯を通じて罪を償うべき。

事件を起こした真相が未解決なまま死刑になってしまう感じを持っている。この世から排除するのでは無く、今後その様な凶悪犯を生まない社会にするにはどうしたら良いのか、犯罪を犯した人がどうしたら社会の一員となるのかを探っていく事は大切だと思う。

死刑になりたいために犯罪を犯すバカもいる また、冤罪事件がまだまだこの国では起きる 和歌山カレー事件もひょっとしたらと 考えると 死刑を残すよりも被害者や冤罪のケースも考え 死刑自体を廃止し刑の見直しや刑務所といった 施設についても見直しをかける方がよいのでは

冤罪に反省しない司法がある限り国家による殺人は許されない。無期ではなく刑期を積算し 150 年とかにする方が良い。

冤罪の問題はあまりに大きい。人権も尊重されねばならない。

死を持って償えない罪もあること、死刑執行人の人権問題、えん罪の可能性、など。

終身刑を導入する

凶悪犯罪の抑止にはなっていない。冤罪の問題も解決できていない。

終身刑にすべし。

現在の裁判制度で冤罪がないことは保証できない。但し恩赦制度は無くし、楽終身刑はきちんと終身として行うべき

命を奪って刑罰として終了してしまうことの方が終身刑よりも安易な罰し方だと思います。

人は過ちを犯す。ましてや、袴田さんに謝罪するどころか「我々は間違っていない」かのような傲慢な談話を披露する検事総長を据える検察に、検察の証拠のみで実刑を決めてしまう裁判官がいるような日本で死刑制度など以ての外である。

誤審をなくすことは不可能であり、死刑は人が人を裁く量刑として不適切かつ不遜である。

死刑執行後に誤審が判明してしまった場合取り返しがつかないから。

死は不可逆であり、罰として適当でない。

懲役刑のほうが罰としての効果があると思うので。

人間死んだらなんにもできん。死には死をもって償う、なんて、馬鹿じゃないの？。死に値する、ような奴は、ムシヨから出さんでいい。経費は裕福なモンが主になって何とかすればいい。

最高刑は無期懲役で十分だと思います。冤罪もたまにあるようですし。

人間が裁く以上間違えがあるからです。①の理由によるところが大きいです。

人が裁くべきでない

冤罪の問題だけでなく現在の司法制度は信用できる状況ではない。司法制度の根本的見直しが望ましい。

誤った判決がゼロになることはない。やたらと人を殺さない方向に人類は歩んでいる。

死刑ではなく、むしろ生涯にわたって罪を償わせるべきと思う。

冤罪死刑となった場合に、死刑を訴えた側も死刑になって責任を取るのか？ 死刑とは取り返しがつかない判断である。一方で、少年法も含めた厳罰化の議論はある。

冤罪があるから。

命は取り戻せない。終身刑の形が良いと思う。

人が人を裁きその命を奪う怖さも感じますね 何故なら人の裁きの判断に完璧はないんじゃないかとも思います 実際に冤罪もあるわけですから ただ被害者の感情も理解されないとダメだと思いますが犯罪起こした人の心理も含め更生プログラムもどのように対応するかを求められてると思います 再審請求に関しても適切な対応

すべきだと思います。
冤罪の可能性があるため
罪には罪をの考えでは、やられたらやり返す社会を容認することであり、犯罪は無くならない。
冤罪の可能性を否定できない以上、死刑という名目での殺人を認めることはできない。
死刑制度には、賛成ですが刑のやり方が古い。安楽死にするなら、賛成。苦しむ立場で刑を処すには反対です。
現在の司法制度や捜査手法には問題があり、冤罪が発生している。司法制度、捜査手法が抜本的に見直されて定着した段階で、再度死刑制度について議論して方向性を決めればと思います。
冤罪であった場合、取り返しの付かないことになります。罪に向き合い、被害者とそのご家族に対して、一生をかけて罪を償うチャンスが与えられるべきと考えます。
国家権力による冤罪があまりにも多くて、廃止にしたい。
冤罪、検察の取調べの強引さ、弁護士をつける事ができない事等被疑者が不利な条件が多すぎる事が理由です。
死刑が被害者の感情を解決するわけではないから。
アメリカみたいに終身刑や仮釈放のない終身刑、刑期の加算があれば死刑は廃止できると思う。
とても、難しいと思いますが、やはり、無い方が良いのでは！ 竹島なんかに、島流しにすれば、どうでしょうか？
賛成のご意見通りです。廃止しないのは日本人の劣等生を感じます。残念な国民です。
何人とも他人の存在を奪う権利はない、それは殺人を犯した犯罪者であってもその命を他者が奪う権利はない。
冤罪がある 時代遅れである
冤罪の取り返しができない
刑が確定してから何年も執行されなかつたり、大臣がサインしたしないで大騒ぎするのがエネルギーの無駄。税金で生涯養った所で受刑者国債でも発行して国家が債務を負えば、看守や食料生産者の実質賃金が増え経済も回る。
死刑は国家による殺人ではないでしょうか。もう多くの国が死刑は廃止に向かっているのです。
死刑は法的な殺人にならないか？と思う
冤罪の可能性がない場合にはやむを得ない
大なり小なりの犯罪を犯した者がいて その者を死刑にしたところで被害者に とって何も得るもののがく、本当に罪を 償わせたいならば無期懲役が適当。形(姿)が見えなくなるだけで被害者に とって償いは伝わらない。また、冤罪もあるかもしれない。
冤罪事件がある以上、死刑制度はやめるべき。
犯人であることを疑いようのないケースがほとんどかもしれないし、弱いものを死傷させた犯人には命をもって贖わせたい感情にかられるが、袴田事件のように国家ぐるみで冤罪を作り出す可能性が決して低くないことと自身が巻き込まれたときを想像すると回復不可能な刑罰は無い方がよいのではと考えている
今の警察、検察、裁判官は職務を無視した偏向な集まりで、人を死刑にするレベルなど持ち合っていない。
日本国憲法の理念に基づけば、死刑制度自体は存在するに値しないと考えられます。また、刑法上、殺人(または尊属殺人)の罪によって死刑という司法判断があると思いますが、場合によっては、死刑以外の刑罰(懲役刑など)も下されます。裁判に携わる司法関係者の判断がいろいろな要素の中で左右される事を鑑みれば、安易に

死刑という刑罰を選択肢のひとつに入るのは、法治国家の法律としては、あまり高度な司法制度ではないように感じます。

死刑が執行されてから冤罪が明らかになっても取り返しがつかない。

死刑が執行されても、遺族の苦しみは一生消えないし何も変わらない。執行する職員に、精神的な負担がかかる。拘置所で死刑施行を待つ期間と終身刑は、税金の負担がさほど変わらない。

あらゆる理由において、すぐに廃止すべき。この国が内包する残虐性とそのことを顧みようとしない無謬性があらわれている問題。

冤罪のおそれ

如何なる理由においても、人の生き死にを人が決めるべきではない。

死刑制度は人権無視の制度かと思います。やはり廃止すべきと考えます。

冤罪が多発している現実がある。検察及び司法が信用できない。犯罪の抑止力にもならない。罪を犯しても個人の人権はある。被害者は死刑が執行されれば本当に喜ぶのか？救われるはずはない。更生に努めることが大切。

人の死に他人が関わる事ではない

人間が人間を殺すことを容認できません。死刑廃止が文明国家の標準になることを望み、日本もその一員になることを切望しています。被害者遺族の感情は理解致しますが、犯罪防止は他の方途を探求すべきであり、まして収監コストで考えるべき問題ではないと思います。日本では警察や検察の人権意識の歪みが存在し、冤罪事件が今も起きています。

死刑は国による殺人である。殺しておしまいではなく、罪の償いをさせるべき。また、更生する道を塞ぐことになる。

今の検察は、人質取り調べを未だにしており、冤罪を生む確率が高い。袴田さんの例をみれば、あきらかであり、畠本直美検事総長の談話も袴田さんへの謝罪もなく、あくまで、犯人扱いに憤りを覚える。特高警察も公安警察として生き残っており、社会主義者を弾圧、関東大震災時には、大杉栄らを殺害。死刑制度は廃止し、今の司法制度を抜本的に改正する必要がある。

全ての命が尊いから

再審無罪事件が複数発生している。死刑に処せられていたら、無実の人間の命を法律の下に奪うことになる。どう考えてもこの状況を放置していいわけがない。また、自殺願望的犯罪を生まないためにも。

被告人の死をもって、その犯した罪の賠償を求める死刑制度は、罪刑の謙抑性や罪刑の均衡に到底適うものではなく、よって最大の人権侵害であると言わざるを得ないと考えるから。

冤罪で命を奪われる人は絶対に無くしたいので。

人が人を殺す制度はあってはならない

死んだらあとから聞きたいことや新事実が出てきても不明なままになる。また、死んで終わりにするのではなく死ぬまで罪に向き合い一生を終える方が犯罪者には相応しい。

松永拓也さんの暴走事故で、受刑者が亡くなった後の松永さんの言葉(ものすごい境地のお話でした)や、今回の討論の中で妹を殺害されたが死刑には反対、とおっしゃっていた方、冤罪への憂慮など、もちろんそれぞれの見解の違いはありますが、それらに鑑みて、廃止は人道上望ましいのではないか、と思いました。執行する方の人権、裁判員制度で関わることになる方の精神面のことも大きいと思います。経費の負担も、人道上の配慮で致し方ないかと感じます。もちろん終身刑など実効性を持つ刑罰の、より厳密な調整は必要かと思います。

誤審の問題が第一。飯塚事件の調査報道をみて様々な不信点や疑問が湧いた。それから「死刑囚となった人」

の捉え方のこと。例えば、もし自分が同じ境遇で生まれ歳を重ねたとしたらと考えると…同様の罪を犯したかもしれない。犯罪が事実であったとしても、その死刑囚の人生の意味を考えると余りにフェアではない気がする。
袴田さんの事がある。厳しい取り調べにより自白強要、誤審、冤罪も中には必ずあると思う。
裁判の誤りによって死刑判決が確定し、再審で無罪になった事実は重い。死刑制度があることによる犯罪抑止効果の有無も明確ではない。
人は間違える。そう思ったとき、戻れない制度に反対。
残酷な刑だから
国家権力に人の命を奪うことまで付託することはできない。
処罰は矯正と救済を目的としたものでなければなりません。
実際に警察の杜撰な見込み捜査で死刑囚とされた後に冤罪だったとされる事件が多数あることから鑑みて、冤罪が明らかにされることなく殺されていった人々が多数いたんだろうことが推察される。世界で死刑という残酷な刑罰は廃止されており、袴田事件の例を引くまでも無く、人間のすることに間違いはあるという事を前提に制度は廃止されるべきと考える。
冤罪を無くすことが不可能な以上、死刑制度は廃止すべきだと考えます。袴田さん、大川原化工機などのニュースを見ても、強大な国家権力に個人が立ち向かうことは容易なことではありません。死刑制度は個人の人権や尊厳を無視した国家による殺人だと思います。また、昨今は、死刑になりたくて犯罪を犯したという犯罪者もいることから、死刑制度が重罪犯罪を防ぐ抑止力にはなっていません。死刑制度は廃止し、犯罪者の再犯を防ぐ更生により力を注ぐべきだと思います。
労役
犯罪者も被害者であると考えます。ほとんどの犯罪者が、大人に守られない子供時代を過ごしてきたはず。死刑制度で問題は解決しない。我々の歪んだ意識を根本から改め、子供を守る社会を創ることが、遠回りなようで唯一の解決方法と考えます。
死刑があるから凶悪犯罪がなくなるわけではないことは今までの犯罪を見ればわかる。また、冤罪によって無実の人の命を奪う可能性はゼロにはならない。罪の深さを反省させるためには罪を犯したものを作りこす可能になると思う。
人の生死を同じ人が判断する事に疑問がある。
死刑制度の凶悪犯罪抑止効果はないのでは。凶悪な人物を一般社会から隔離するためには、終身刑で十分であり死刑は必要ない。取り返しのつかない冤罪を生む。口封じに利用されるきけんがある。歴史の検証ができないくなる。
冤罪事件が多い
終身刑を作れば万が一の冤罪にも対応できるし、終身刑は別の見方をすれば「一生、罪を背負って生きなければならない」と言えるので、死刑よりも残虐な刑罰との解釈もできるから、終身刑で対応すればいいと思う。死は人間にとて、楽になれる逃げ道もあると思うから。
死刑賛成の意見は一つを除き どれも 説得力を持っていないと思いました。その一つは、死刑囚を養い続けるコストがかかる、というところが気になりました。しかし、自分を養う以上しっかり働いてもらい 悔い改めてもらい 被害者に救済し続けてもらう、ということで折り合いがつかないかなと考えました。
被告人の命を絶つことで、その罪を償うことが本当に、この先の社会に役立つか、これまでの歴史が証明しているのではないでしょうか。社会奉仕にその命を捧げて、生命を全うするシステムの構築を検討し実行することが、望ましいと考えます。

人を殺すことは罪だと思うから。死刑が犯罪の抑止にはならないと思う。

昨今、死刑を求刑された方の冤罪が話題になっていますが、すでに冤罪で死刑になってしまった方は少なからずはいると考えます。司法も人で間違いは犯すものです、そのため取り返しのつかない死刑制度は廃止するべきです。

死刑の犯罪抑止効果に疑問がある。最近では袴田さんのように、死刑囚が 58 年ぶりに無罪放免になった例もあるように、無罪であっても罪を認めない限り保釈せず、自白を強要する人質司法が当たり前の日本では冤罪の可能性がぬぐいきれない。飯塚事件のように、無罪の可能性があり、再審の要求が出ていたにもかかわらず、死刑執行されてしまった例があり、取り返しがつかない。

現行の刑は死刑と重刑の差がありすぎると思う。死刑制度を廃止し終身刑を法制化する必要がある。同時に無期懲役を廃止する。死刑執行をする刑務官の苦悩の話を聞いていろいろなところに影響があることも知った。

最近の冤罪事件や検察の捜査の実体の報道を見る限り、冤罪の可能性がかなり残されていると思う。その状況で死刑を認めることができるとは思わない。

人の感情は時間に変化する。被害者であっても同じ。無期懲役を最高刑とすべき。

すべての裁判が誤りなく行われるとは限らないため。

まず、冤罪事件が相次いでいる日本の司法の現場が信頼できないこと。次に、死刑相当の犯罪を起こした人に対する死をもって償うのではなく、再発防止や、人殺しなどの凶悪犯罪を「起こさせない」ような社会に変えていくために、専門家による聞き取りや調査研究に被調査者として協力し続けることで、償いができることもあるのではないかと考える。

どんな理由でも、人が人を殺すことを法的に認めてはいけないと思うから。

袴田事件無罪確定他 4 件の冤罪死刑判決が存在し、飯塚事件に至っては死刑執行済みで司法としては再審無罪にできない、等々。不法捜査や誤審など死刑に関しては取り返しのつかない究極の国家権力の行使だと思います。その一点だけで廃止一択だと思います。しかし、被害者感情、再犯など多くの方々が懸念を抱いてます。まずは、再審とそれにかかわる様々な司法制度・法律の改正・追加など無実の死刑囚の救済を急がなければと思います。

いろいろな意見もあるので、一度廃止にしてみるのが良いと考えるから

冤罪を無くすことは不可能だから。また殺人は、個人がやっても国家がやっても、殺すということだから。死刑ではなく、一生自分に向き合い続けることの方が意味はあると考える。

死より重い罰を受けさせるために、生存させるべきである。

警察・検察の捜査は 100% 正しいと言えない。人の行う事には限界がある。

殺人は犯罪であり、たとえ刑罰であっても国家が殺人を認めてはいけないし、一市民として加担したくない。また、冤罪の可能性もあり、死刑は取り返しがつかない。

冤罪の場合取り返しがつかない。日本の警察の捜査や取り調べの情報が殆ど公開されない状況だから。被告人が圧倒的に不利になるため。凶悪な事件でも死刑にしてしまったら、テロなど社会的影響のある事件の場合、何故そのような事件を起こしたのかなど、未来に活かせる情報を断つ事になるから。犯罪被害者への救済は、死刑ではないと思うから。死刑は人権侵害であると思うから。

冤罪が 100% まぬかれるわけではない。

いかなる理由があっても人が人を殺すべきではない、と考えるから。

死では犯した罪は償えないと思います。

裁く事が出来るのは神様だけです。

被害者のうつ憤を晴らすための存在から生涯を以て償うことを最高刑にすべき。死んで楽になりたいという犯罪者もいる。

1、警察、検察、政治家…一般市民まで情動的なものに左右されやすく、扇情的なものに煽られやすいから。2、1の原因だろうが、教育の貧困により批判精神がなく、権威主義を内面化している傾向が強いから。3、国連からも勧告されている…特権を持つ人に便利な時だけ他の先進国と合わせることを推奨されるが、冤罪や言いがかりを避けるためにも人権に関して、国際的な見識に合わせる方がいいと思う。無実の人に濡れ衣を着せるのは一番卑怯なやり方だと思う。殺してしまえば事実も真実もわからないと開き直っている様が不愉快だ。無実の人に汚名を着せることがないよう、人権を早急にインストール、行き渡せる必要があり、その第一歩として死刑廃止が望ましいと思う。フランスなども、まず死刑廃止から始めたのだから、その意味で、前例があるのだしうると思う。

冤罪があるし犯罪を犯す人は、死刑制度が抑止にはならないと思う。

生命の尊厳は人としての基本的な権利です。国家権力による殺人＝死刑は、残虐な刑罰であり、憲法にも反しています。権力による恣意的な殺人にも通じます。冤罪の多い日本では無実の人をも死刑で消し去ります(飯塚事件)。法権力の面子と組織維持だけのために。袴田さんの無罪判決を機に国民の冷静な判断を期待します。

なにがなんでも人が人を殺してはいけない。

まず、冤罪を無くすことができない以上、国家権力によって無実の人が殺される可能性を持つ死刑制度は無くすべきである。凶悪犯は改心しない限り、生涯を通じて国家管理のもと働き、被害者にせめて金銭で償うべきである。現行の死刑を実行するやり方は、著しく死刑囚の精神身体を害するもので、死刑囚だからと言って許されるものではない。

死刑で罪を償えるのか分からない事と冤罪への疑いがあるため

国家と言えども人の命を奪うことはできないはず。冤罪の場合の取り返しがつかない。

取り調べや裁判の過程で、自白の強要がある以上、謝った判決に至る危険性がある。終身刑でよい。えん罪をなくす。

検察の捜査が恣意的である。冤罪の可能性が多々ある。

人は生育条件や環境に制約される。成人であれその行為の結果だけを見て裁断することは許されない。国は被害のケアと原因究明と除去に力を注ぐべき

人が他者の生命を絶つことはいかなる理由があっても許されないと思うから。犯罪であろうが制度によるものであろうが誰も他者の命を奪う権利はない。

国家の殺人を認めることができないから。犯罪者がることは、個人の原因だけでなく、国家にもあると考えるから。

冤罪を防ぐため

冤罪の可能性も有るし、検察が信用できない

冤罪の可能性

終身刑にするべき。

冤罪がなくならないから。

罪人を殺しても解決にはならない 人が人を殺してはいけないと思います

冤罪で殺されたくないから

残酷。冤罪

冤罪のケースを考慮すると、取り返しのつかなくなる可能性があるので。
間違うから残酷だから
死刑とは国家権力による殺人であるから。
人間は間違えるものです
冤罪の可能性はゼロではない 命を奪ったことに対して命で償うというのはあまりにも短絡的、野蛮
冤罪事件が発生しているに、死刑を執行していることは国が殺人を犯している。最高刑罰は、仮釈無しの終身刑にする規定が必要
死刑は国家による殺人です
国家が殺人を推奨すべきではない。特に冤罪の可能性があるのならなおさら。
冤罪や誤審の可能性が否定できないため。
賛成の①による。
袴田さんの件でもあったように冤罪の可能性もあるし国家が人を絶命させることは犯罪だと思う。
冤罪を防ぐため。また、永山事件のように心から悔い改めた人は、生きて被害者を考え続けて欲しい。死刑を廃止し、終身刑を制定して欲しい。
人間が為す行為は完全ではなく間違いがある。死刑は取り返しができない。
いくら重大な罪を犯したとしても、国家が、その人を 殺すのは、良くないことだと思う。
冤罪の危険性、どこまでなら死刑の線引きが分からない、遺族の心情は解決されるのか
命は、国、人、制度で、決めてはいけない。
浄土真宗の門徒であること、この国の司法が警察・検察・判事が信頼できないこと、冤罪が多すぎること、特に取り調べ内容や勾留期間などの透明度がないなど、たとえ犯罪者であっても何人も命を奪う資格はないし仇討ちの様な死刑では何も解決できないと思うから。
死刑以上の償い方をしてもらう。
すべての裁判に誤審の危険性があるため
冤罪の可能性が必ずあるので、命を奪うことで刑に服するというのは取り返しがつかないことが起こりえる。袴田事件は死刑確定囚だったが、冤罪になった。実際にこのようなことが起こっていることを考えると、死刑制度は廃止した方が良いと思う。
もっとも残虐な刑は島流しと学んだ。被害家族の復讐心を満足させるための死刑は、シンパシーを感じるが、やはり疑問である。妥当な刑罰制度を構築が必要である。
冤罪ならただすまない。
この設問にはわからないが欲しかったです。とりあえず、今の司法が信じられないので賛成にしました。それよりも私は責任能力がない犯罪者を野放しにしないでほしいと思っています。不起訴で頭のおかしな犯罪者が野に放たれたら恐ろしくて住めないです。刑法 39 条の見直しをしてほしいです
自分の身に起きたらとても冷静ではいられないでしょうが、それでも死刑に限らず被害側の仇討ちのような心情をもとに刑は決定するものではないと考えます。原因を解明することこそが重要ではないでしょうか。
裁判所、検察庁、警察が信用できない。廃止は世界的趨勢。
人間が人間を裁くことは可能なのか？ そもそも法とは人間の作り出した人間のためのルールであるから、いかなる事案においても人が人を殺すことは法がまだ幼稚であると考えます。
生きて考えることが、大切 いつかは、人間死ぬのだから

死刑制度とともに無期懲役も無くし、終身刑が最高刑になって欲しいから。
死刑制度が残るのは世界では少数派
死刑判決に関するものだけではないが免罪事件における警察の捜査は、その困難さを考慮しても、思い込みによる証言誘導、証拠捏造、長時間の取り調べ、被告に有利な証拠の隠蔽等がみられる。したがって、今まで多数の冤罪被告が極刑に付されたことが予想される。そして、免罪事件発覚時においても警察に反省の意思が全く見られないことから冤罪による死を防ぐには死刑制度の廃止しかない。
国家による殺人行為と考える。
日本のように有罪率の高い国で、死刑を行うのは危険すぎる。
現在の日本の司法に、信頼が持てないから。人の命を、別の信頼に足らない人間に預けてしまうことは、自分はできないと思える。「無知の涙」を読んで、心から改心できる実例があると考えている。
冤罪の場合、取り返しがつかない。死刑制度は犯罪抑止につながらない。国際的に後進国で、犯罪者の受け渡し条約締結に支障があり問題。ただし終身刑を厳密に運用し、犯罪者を安易に刑務所から出さないようにすること。
国家のみが合法的に人を殺す権利を有することは認められないと思うから。
人が人を抹消することは戦争犯罪と同等であり、また、罪の償いは生きて実行するべきであるから。
国家が被害者(家族)に代わり復讐を果たすことの理不尽さ。人を殺してはいけないと言いつつ人を殺すって、理解できない。
判断の誤りを犯す可能性のある人間が他人の生殺与奪に関わるべきではないと考えるから。
冤罪の可能性がある案件への懸念も当然ありますが、そもそも刑罰は被害者の加害者への敵討ちであってはならないし、被害者感情を考えて最高刑が死刑と言うのは違うと思います。また、この国の主権者は一人一人の国民なので、国家が主権者を殺しても良いとは思えません。終身刑の創設程度が適切だと思います。
冤罪での死刑が多すぎるので無期懲役で働かせて反省させた方が良い。
冤罪防止
袴田事件の様に検察・警察の異常な捜査が行われ、誤審が起きる可能性を考えると、現状では死刑を肯定出来ない。
人権侵害になる。死刑で、罪を償うとは思えない。人は間違えることがある、冤罪の可能性がある。
そもそも死刑制度の効果は犯罪発生率とは関係がないと思います。目には目歯には歯との復讐的な遺族の思いが込められている気がします。現行の法制度でも死刑執行の書類にサインをしない法の執行者でもある法務大臣が咎められない時代もあります。人の生死を決めるのは実際躊躇してしまうのも方が万全ではない証かも知れません。一番辛いのは一生牢獄に繋がれて自由が奪われてしまう事の方が罪を深く考えさせると漠然ながら思います。そして人を殺害した後の苦しみなどを多くの人に知らせていく方が犯罪予防に繋がるのではないかと思たりします。一番の死刑廃止は、冤罪で死刑になってしまう人を防ぐ意味での賛成となります。
絶対的に正しい判断ができる人はいないことを前提にすると(全ての思想や学問の前提もある)、人に死を強いることができる人はいないとしか考えられないから。
冤罪の可能性があることと、被害者親族等の報復感情をもってしてもやはり残虐な刑罰であると考えます。
誤審があるので、取り返しの付かない制度は廃止すべきである。
誤審は防げない
裁判制度の現状では危なくて信頼出来ない。

人間は間違えます。
どんな理由があっても死刑はダメだと思います。
処罰感情だけなら、もはや刑罰としての意義は失われおり、「生きる」に基盤を置いた社会が良いと思う。
冤罪の可能性がある。
殺人はいかなる人にも許されない。強要も出来ない。人は必ず過ちを犯す。犯す人も裁く人も。
●罰としての「死刑」は不要。●何人も命を奪う権利はないから。刑の目的について熟議する必要がある●冤罪の場合、死刑執行後では取り返しがつかない。
松永拓也さんの言動が「野蛮」を乗り越えた「文明」の到達点だと思う。受けた「被害」と同等以上の「罰」を課すのは「野蛮」を是とする非文明社会。「罰」は報復ではなく「償う」ためにあるべき。死んでは償いはできない。
人命を取る事は国家といえども絶対反対
判決は 100%正しいものであるかどうか仮に冤罪の可能性が 1 件せもある以上し判決に死刑を下すことは絶対に反対 終身刑を作ればよい
死はおもすぎる。無期懲役がいいと思う。また、冤罪がある前提を考えるべき
被害者のご家族の心情は理解できるが<TAB>加害者に一生反省と罪を償って生きさせるという事も大事なことのように思う
冤罪となったら取り返しが出来ない
現在の司法制度では冤罪を100%なくすことは不可能だから。
罪に対して、相応の罰を最大一生かけて負わせる仕組みとし、死刑を廃する
死をもって他人の死を償うことは無理と考える。生涯反省することがいい。
国家権力が人の命を奪う正当性はない。
冤罪による人権侵害の懸念から
軽い罪なら軽い罰で釣り合いが取れるが、罪が重くなればなるほど、刑罰というやり方は、問題解決の手段として上手くいかなくなるから
死刑制度の存続が犯罪の抑止力になっているか疑問。
生まれた時から極悪非道の人間はいない。育て方では聖人と呼ばれる人にになったかも知れない。
1.冤罪による死刑の防止 2.命を国家権力で奪うことの恐怖 3.死刑が凶悪犯罪防止にはつながらない 4.死刑執行官というこの世にあるまじき職業をなくす 5.死刑囚という生きた屍の状態の人をつくりだす非人道的制度に反対
死刑が犯罪の抑止になるとは思えないし被害者のなぐさめにもならないと思うから。
生命を奪うべきでは無いし、冤罪であれば取り返しがつかない
犯罪者であっても命を奪うことに抵抗がある冤罪もおきているので
世界的な流れ どちらにせよ議論は必要があり
冤罪で無実の人間の命を奪う可能性があるから。
人が人をどんな理由があっても殺すことは出来ないから。
賛成の理由:被害者側として考えたとき、加害者が死刑になったからといって、決して被害の事実がなくなるわけではなく、加害者が死刑に処せられたことにより新たな心の葛藤が生まれるのではないかと思う。反対の理由:一方で、確かに世界では死刑制度が少ないのかもしれないが、それにより抑止力というところが低下していくとも考えられるように思う。

冤罪による執行の恐れをゼロにはできない。
制度は残す方が良い。悪魔的な殺人者はいる。冤罪は無くす前提で。
人間は間違いをおかすので
日本の検察の捜査については信用できないから。間違った捜査をしても『本心から』誤りを認めない。
冤罪だってあり得ることや、命の重さを鑑みるに、奪う決定はそれこそ神への冒瀆だと思います。
冤罪の人が死刑になる事があるし、今まで死刑になった事がある、
残念ながら、「確定した死刑裁判」はそうしても見直せなくなり、どうしても冤罪が発生するので。
死刑と同等の別の刑罰を制定するという条件で。
犯罪抑止のための死刑というのも一理あるが、むしろ簡単に仮釈放される様な事も問題だと思う無期とかやめて有期100年とか可能にしてほしい
終身刑でも働いてもらうことで経済的である。
究極の不可逆的な制度であり誤って執行された場合、救済の途が無い。また、人を殺す職務を課すのは許されない。
いかなる理由が有ろうと、人の命を奪ってはいけない！
最近までは死刑賛成派でしたが、袴田さん事件のことを考えるうちに、人間が人間を裁くことの難しさを感じました。長い司法の歴史の中では、無実の罪で死刑判決を受けて亡くなった方もきっといることでしょう。ただし性犯罪犯、殺人犯等への現時点の刑法の刑期は短すぎるのでもっと厳罰化してもらいたいと思います。
死刑執行も殺人に値するから
冤罪があった場合取り返しがつかない
冤罪の可能性がある
人殺しを生んだのはその社会の責任。その責任を痛感させるためにも、犯罪者を生かし続けるのは、社会が追うべき責務だと思うから。被害者家族になってもそう思えないだろうと思う個人的な感情はあります。
冤罪が全くゼロにはならない限り、死刑制度はなくすべきと思う
起訴した99%が有罪になる日本において、えん罪が多数でていると思うから。
廃止すると同時に終身刑を導入すべきと思う。正直どちらともいえない問題で国民的議論が必要。
今の日本の司法制度では誤審を避けられないと思うから。ただ廃止する時は実質的な終身刑が必要になると思う
人命の尊厳
「人間の命は地球よりも重し」を信じています。
廃止制度は、世界の流れであり、生涯を通じて罪を犯した意味、防犯の為に必要なことを、国民全体が、学べるように、社会に役立つやり方で、償うべき、で簡単に死なせてはいけない。
日本という国の司法制度が信用できませんから。
猿は猿を殺さない。猿の惑星
生命への尊厳、生きる事の虚しさを堀の中で一生かけて経験
冤罪の可能性がある。更生の可能性がある人もいるだろう。無期で仮釈も選択肢だ。現状の30年以上が適切かは不明。
人が人の命をどうこうすることが許されているということに基本的に抵抗がある。そして人が裁く以上冤罪や過

ちはつきものだから。
世の中に完全なる”正しさ”が存在しない中で、”死”を持っての償いをするのは間違いがあった場合に取り返しのつかない事であるし、人間の奢りだと感じる。
司法制度そのものに信頼がおけないなかで、死刑を存続することで、冤罪を生む。
廃止意見に賛同するから
死刑を最高刑とするのではなく、終身において罪を償わせる必要がある。
①被害者家族や関係者の心情を考えると死刑制度を維持することについて、一概に反対はできない。しかし、「袴田事件」などの冤罪事件を考えると、冤罪により死刑が執行されてしまう状況は避けなければならない。②死刑を執行する刑務官の心理的負担を考えると、死刑は取りやめるべきである。③死刑の代わりに終身刑を導入する。ただし、これは人生を奪う刑罰であり、一生、罪を背負って生きていくことになる。ある意味、死刑より残酷な刑罰かもしれない。しかし、理不尽に他人の人生を奪った罪は一生背負っていくべきだと思う。
100%誤審がないことはない。事と世界的に死刑制度はマイノリティー、被害者遺族も、死刑で終わらないと思います。一生罪をつぐなってほしい。あと、死刑されるために犯罪を行う人も少しいるようなので、死刑制度反対です。
人が人を殺してはいけないから。誤審の可能性を否定できないから。
死ぬまで罪を償うべき。
世界で半分以上の国で廃止されているし 無実の人が死刑になることがあるから
冤罪を防ぐことができないから
無期懲役ではなく終身刑にして欲しい 身内が被害者の場合は思うところがあるが 元には戻らない
どんな理由があろうともいのちを奪ってはならないと思う
検察に信用が置けず、冤罪の可能性と言う点が大きいが、とにかく何人も人を殺める事は許されないと思う。
無期懲役、終身刑を厳格に実施する。税金の無駄という意見があるが、食費などの生活費を刑務所内で労働して得た給与から払わせればよい。死刑を望む受刑者もいるので、そんなやつらを簡単に死なせてはいけない。もっと苦しみ悩み反省してもらい、被害者遺族が認めた場合に限り刑期を短くできる余地を残しておく。
受刑者には被害者・遺族に被害弁償をさせ、生涯、罪を償わせるべきである。
人間が判断する限り、誤ることがあるし、それに気付いたとしても、検察は誤りを認めない事が多い。狭山事件、袴田事件等々 非人間的な取り調べで自白を引き出す。検察、裁判所に信頼性がない。最近では袴田事件や大河原化工機の決着の仕方に、納得がいかない。
罪を憎んで人を憎まず
やはり人間が判断することに一切の間違이がない…とはいえない、袴田さんの場合のような事が起きてはいけないと思います。
冤罪のリスクはゼロにできない。
罪を犯していないても人質司法で自白を強要され、罪に問われてしまう可能性が恐ろしいので、最低限死刑は廃止にしてほしい。
冤罪が100%なくなることはあり得ないから
誤審が意外と多いのと、人が人を殺すことは出来ない。
冤罪がある
法的判断というのは物理法則と違って常に間違った結論を出す可能性がゼロでは無い。死刑という判決に置い

て、それが間違っていたときの修正が出来ない。罪の償いとしても死刑では無く他の方法でやるべきである。
極悪犯は終身刑にして一生罪を償うと思う
最近、冤罪が多々表面化しているので、誤審による死刑はあってはならないと思います。そもそも、人を殺めたから、同様の刑を科すと言う考えが、近代的か疑問です。仇討ちの時代は終わったと考えています。
基本的には賛成だが、被害者家族の気持ちもあるので簡単ではないが終身刑がよい。冤罪の保証もこめて警察による捜査が信用ならないところがあり 無罪の関係ないと思う方の死刑などあり得るのは恐ろしすぎる賛成の主張に書かれていた事、全て同意見です。
合理性が全く無い「現在の」死刑制度に全く賛同できない。被害者の復讐感情が、と言うなら被害者と家族が希望したら執行に参加できる制度が必須。法制化したところで執行が殺人行為であることは変わらない。安月給の公務員に執行を押し付けるのはあまりに非道。凶悪犯や精神異常者や確信犯に対しては抑止効果は無い。自爆テロやったら死刑だぞ!って脅しても意味無いでしょ? 科学的に言えば死刑相当者は「レア」なので、貴重なサンプルとして研究し、社会をデザインするための資料とすべきです。研究に協力することを執行猶予の条件としてはどうか? もちろん冤罪を完全に排除することができないというのも、大きな理由です。
冤罪がありえるので、取り返しのつかない事になる可能性が否定出来ない。方法が残酷だと思う。
何人にも他人の生死を決定する権利はない
犯罪を犯したことについて考え続けてもらいたいから
仮に現在の場合、取り返しがつかないから
無実の人を死刑にする可能性があることと、罪は生きて償うべき。
殺人を否定する法律が死刑という殺人を行うことに矛盾を感じます。また冤罪の可能性が 0%になることはあり得ないことを考えると死刑制度には反対です。また、死刑になるために凶悪犯罪を起こそうとする人には、死刑制度そのものが犯罪の動機となり得ると思います。
誤審の可能性を完全になくすことは不可能であり、かつ残虐な刑罰であるから。
誤認逮捕の可能性を何人も否定できないから
人権意識が最低に希薄なこの国では、冤罪を防ぐことはできない。処罰感情=前近代的な刑が許されるということではない。
免罪だったときに取り返しがつかない。
被害者と同じかそれ以上の苦しみを味わうことによって罪を償う必要があると考えます。
冤罪による死刑はあってはならないから。自分が死刑に処されたいがために殺人事件を起こす人間が存在するから。
死刑と言う殺人制度が罪に対する一番の方策ではないと考える。また、冤罪が少なからずあることから、取り返しのつかない事になる。
冤罪防止
死刑囚「人間園」を新宿や渋谷みたいな人の多い土地に作るべきだと思う。道に置かれた檻の中に居る死刑囚を見て「あーは、なりたくない」と思った方が大犯罪は減るのでは無いでしょうか? 死刑囚の人権は尊重された上で発想です。死刑囚臨終まで他人に「こうなってはいけない」という標本になる仕事をさせるべきだと私は思います。
死刑を認めるることは、個人と国家におけるその権力の執行に差を認める事になる。個人に認められていない項目を、国家(法人)に認める事は平等性に反する。国家による殺人を認めると、ひいては戦争を認めることつな

がるから。

世界的に見ても、死刑を採用している国は少ないから。

冤罪の可能性は絶対ゼロにならない以上、死刑制度は廃止すべき。日本の刑事司法の現状からすればなおさらである。また、死刑制度の運営自体がまったく公開されない日本の現状をふまえれば、そのような国民の生命にかかる制度に関する情報公開をしない体質の権力に、死刑制度をゆだねられない。

今の検察、警察、裁判官が信頼できない。特に人質司法や恫喝取り調べは許せない。

その時代は既に過ぎている

冤罪の恐れがゼロではない。どうしても、罪が許されないものならば、本当の終身刑にすればよい。終身刑にする予算が無いのであつたら、刑に服している間に行つた仕事の収入を刑に服している間の生活費や被害者に対しての償いのお金としてはどうだろうか？

廃止に賛成、反対意見、両方読みました。反対意見の方はやや短絡的思考かと見受けました。私はむしろ、性犯罪を厳罰化してほしいです。日本は緩すぎる。どれだけ女性が軽んじられているのか。恥ずかしい。

裁判に誤りはつきもの。誤った場合死刑は取返しがつかない。

人が裁くことは、必ず間違いもある。その為人を裁く中での死刑には反対

検察都合の冤罪がある限り廃止

冤罪の可能性、また人間が人間の生死を左右することに正当性を感じられない。

命の大切さを考えるなら、殺人行為も死刑も国家間の殺戮も同じである。生まれつきの殺人者は存在せず、殺人者を生み出す環境をなくすことが第一義である。現状は逮捕者を犯人と決めつけて自白させることが捜査員の習性となっており、えん罪事件がなくなることはない。自分の人生を捨てた者をさらに絶望に追いやる社会システムを放置して、処罰感情で問題を覆い隠しては、皆が安心できる社会にはならない。

冤罪がゼロになることは望め無い。万が一にも無実の人を死刑にすることがあつてはならない。

そもそも人間、命は自分のものであって、自分のものではない。人間誰一人とて自らの意志を持って生まれて来たわけではないし、今この一瞬も命(意識)を個人的に維持し存在できているわけではない。つまりは、今の今、生かされているのであり、その命の生殺与奪の権利は誰にもない。あるとしたら、それは神のみであると知るべし。いかなる理由をもってしても命を奪う行為は罪である。

冤罪の危険性

人は更生できる可能性を持っているのでその努力をする。。

元司法関係職員として、「人は必ず間違えを犯す生き物である」という基本が大切です。生命を奪うという死刑制度は、間違えを訂正できず、絶対に廃止しなければならない。袴田事件を見ても、司法制度に完全に無く、判断を間違えるものなのです。

冤罪の問題を放置したまま死刑制度を有効にしておくべきでない

人は不完全故に間違いもあり、人として未熟故に捏造すら起こす。それらの実例から、人が決めた死刑制度は最初から欠陥を内在したものと言わざるを得ない。又、殺人は感情的に犯行に及ぶ(死刑への怖れから行為をやめる理性を失っている)事が多く、抑止力はあまり期待出来ない。

冤罪があるから

賛成の主張①と同じ意見です。国家権力による殺人が是認される理由はないと考えます

死刑がなくとも終身刑で対応できる。死刑は殺人と同じだ。

人が人を裁くと言う事は、必ず間違いおきる可能性が有ると思うから。

誤審による死刑は取り返しがつかない。冤罪の証明には時間がかかり、やはり取り返しがつかない人生となる。犯罪を犯すように仕向けた社会の責任があるので、時間をかけて罪と向き合うようにするべきである。
かつての日本の社会では、報復や見せしめとしての意味があったかもしれないが、現在ではもはやその必要はなくなり、懲罰としてこれを用いる権利は人にはないと考えます。
強制的に命を奪うことは、基本的人権の精神に反すると思う。罪を償うのは生きていてこそできることで、目指すべきは更生して社会に戻れるようにすることだと思う。
死刑が犯罪の抑止になるとは思えない。国家による殺人は野蛮な制度と思う。終身刑を導入し、罪を犯した人を専門家が調査するなどして犯罪の抑止につなげたい。
あまりにも冤罪が多い
人が判断する以上、誤審の可能性を否定できない。再審への門戸をより広げるべき。
たぶん日本の死刑制度は国の荒廃貧困の為、犯罪防止に寄与していない。犯罪行為の内容による矯正プログラムが必要だ。
死刑になりたいから殺人をする例がいくつかあった。死んで償うより、生きて生涯をかけて償う。働かせて、金銭を遺族にわたす。冤罪があるかぎり、死刑制度は廃止。警察が証拠を捏造して、検察も証拠を開示しない。裁判所も証拠を重要視するのではなくて、検察や最初の証言で決めてしまう。そんな危ういのは信用できない。58年死刑囚として冤罪を背負う苦しみが誰にわかるのか？
人間の判断は100%完璧とはいはず、冤罪の可能性を完全に排除することが難しいと考えるため。犯罪抑止力強化として無期懲役の対象範囲・レベルを拡大して対応してはどうか？
冤罪の可能性を排除できない 現在の司法は、検察、裁判所とも信用できない
誤審が絶対ないとは言えないから。
袴田事件をはじめ、現実に日本には冤罪が少なくない。飯塚事件はすでに刑が執行されているが冤罪の可能性が指摘されている。刑が執行されてしまえば、いくら無実が証明されても取り返しがつかない。死刑は廃止されるべきである。
いかなる場合でも人間が人間の命を奪う権利はない。宗教者の立場からは、今生で生死を超える機会を取り上げることになるので死刑には反対する。
冤罪で死刑になった人がいる
罪を犯した人に対して、別の人気が死を持って償わせる権限が本当にあるのか疑問に思うため
人は間違いを犯すからです
遺族の事を考えたら 賛成とは言わないけど、冤罪の事も考える
国家が殺人を行なっているのに、命は大切～とか言えません。冤罪もそうだし、100パーセント冤罪がなかったとしても、死刑は絶対に反対。整合性が取れない。国家がよくて個人はダメ？
死刑は人間の尊厳を侵す。人間の生存権は国家といえども侵してはならないものであるべき。
人権無視の人質司法と言われる現在の日本において、誤った判決により逆転無罪となるケースが多発しており、死刑判決は司法にとり取り返しのつかない大犯罪となるため。
冤罪を救えない
袴田さんのように冤罪で死刑になってしまう人を産む可能性は否定できません。加害者が死刑になってしまっても、必ずしも被害者の思いは晴れるわけではないとの記事を最近、読みました。また、死刑執行に従事されている刑務官の方達の精神的ケアも不十分ではないという記事を読みました。死刑ではなく、終身刑とし、被害者や社会への償いをしてほしいです。

人殺しを合法的に行えることに疑問がある。人殺しは問題の解決につながらないと思う。
過去の冤罪事件の存在があるから。
飯塚事件を我が身のことと考えたら、怖くて死刑制度に賛成出来ない
加害者と遺族を含めた被害者の魂の救済において、死刑制度が必要とは思えないからです。最も重要な事は加害者が罪を悔い、被害者がそれを許すという事では無いかと思います。犯罪の抑制は刑罰ではなく、豊かな社会と宗教的な魂の救済に依拠すべきではないかと思います。
死刑制度は残虐である。
賛成、反対の意見は、納得できますが、やはり、廃止してほしい
えん罪の場合に取り返しがつかない。死刑を執行する刑務官の心情に過重な負担を強いる。犯罪抑止につながらないという研究結果がある。
冤罪があるのと、人は誰でも更生出来るから。
無罪の人を死刑にしてしまう可能性が有る限り、反対です。
誤審がなくならない限り、廃止するべし
証拠捏造の恐れがある以上死刑制度は廃止
国が人の命を奪う事を制度として認めると、国が人の命を軽視する事に繋がる恐れがあるから
人が他人の生死を決めるべきではない。が、一部の共生不可能な人のために、刑務所の拡充は必要。また、本当の終身刑も必要。
消極的賛成です。冤罪の場合、死刑に処してしまったら取り返しがつかないという事がまず第一点。それと、終身刑を採用して、死ぬまで刑務所で悔恨の日々を過ごさせる事が厳罰ではないかと考えるのが第二点。今の日本では、死刑の次に重いのが、無期懲役という、なんとも中途半端な刑罰しかないので問題だ。何がしかの労働をさせて、一生を刑務所で終える方が刑としては妥当。ただ、殺人の被害者家族などは死刑を望むかと思うので、その心情は察するに余りあるのではあるが… それと、犯罪者引渡し条約が締結されている国が日本は非常に少ないのだが、これも、日本に死刑制度があるせいだと言われている。この条約を多くの国々と結ぶためにも、死刑は廃止すべきではないかと考える。
人の命を奪うのは同様な理由があっても、起きてはいけない
冤罪がこれだけ多いのに、死刑にしたら、冤罪が晴らせない。そもそも国家が国民の命を奪うなど、たとえ犯罪者でも許されない。
死刑は、刑執行後にえん罪がわかった場合、取り返しがつかない。また、日本の司法では、長期拘留による自白強要の問題がある。取り調べへの弁護士同席などがなく、立場の弱い容疑者が密室で警察官に囲まれて捜査側の見立てに沿った供述を誘導されているという疑念がある。また、再審が非常に困難な状態で、一度判決が出ると覆すことはほとんどできないことを考えると、死刑は廃止すべきと考える。
冤罪事件がある以上、死刑制度には問題がある。
極悪非道な犯罪者に対しても死刑ではなく一生償いの心を継続させる終身刑にすべきと思う。尚冤罪を極力無くす再審制度改革は必要かとも思う。
廃止の場合死刑以外の刑罰をもっと厳しくしても良いと思う。刑罰の目的はあくまでも犯罪の抑止であると考える。
冤罪の発生の可能性があるため。
冤罪の可能性がある事件が1件でもある限りするべきではないと思うから

死刑制度があっても犯罪はなくならないし、死刑より生きて償うほうが大事。そして命の大切さ。
条件付賛成です。完全終身刑の導入後の死刑制度廃止に賛成です。現在は終身刑でも仮釈放があります。それでは遺族も無念な上に周囲に住む人も恐怖を感じます。命よりも自由を奪う方がいい。人間は人の命を奪う資格はないと思います。
國家が人命を犯す権利はない。
誤審になる可能性もありえること、また、死によって罪を償うのではなく、生き続けながら自らが犯した罪と向き合うべきだと思うから。
残虐な刑罰であることは明らか。無期懲役でも十分に抑止力になる。アメリカの刑務所のように格差があるのも怖いけど、死刑のある国は恥ずかしいことだ。
人を殺すことが正義だとするまるで戦国時代のような時代錯誤を感じる
司法も人間のする事であり、『絶対に間違わない』はないのだから、取り返しのつかない死刑制度を維持することは支持できない
人間が、神を超えることは絶対にできない。誤審がなくなることはない。ならば取り返しのきかない死刑は廃止するべきです。
死刑制度を廃止する代わりに、終身刑を導入したり、懲役年数を加算する方式などを導入すべき
死をもってつぐなうに値する終身刑があれば廃止してよいと思う。しかし恩赦などなし、完全な終身刑があれば、です。
事件内容によるが、何の落ち度もなく簡単に惨殺される事件が多い、そのような人間が更正するとは思えない。
廃止して不利益を被るものはいないが、廃止によって会心の機会を得る者が増えるから
世界で死刑制度がある国は殆どない。死刑は国による殺人です。
犯罪の抑止効果がないと考える。
単純に、冤罪で死刑となると取り返しがつかない。国が、公が、人を殺すことを許容することは、自己矛盾。
死刑ではなく、また、期間が決まっていなくて途中で出所になる可能性もある無期懲役でもなく、確実に出所させない終身刑として欲しい。
これまでも死刑囚が冤罪であったケースが少くない。この点だけを考えても、廃止すべきである。失われた命は取り戻せない。昨今の闇バイトによる強盗事件においても、強盗殺人は死刑または無期懲役の量刑であるにもかかわらず、何の抑止にもなっていない。実行犯がそれを知らないからでしょうが。
人間が判断することなので、冤罪はなくならない。冤罪で死刑になつてはたまつたものではない。
冤罪は必ずある。
国家が殺人をしてはならない。えん罪の場合の措置。
国家権力が国民の命を奪うことは戦争と同じであり、絶対にあってはならない。その上冤罪で死刑になる例も実際にいくつも起きており、そうなつてしまうと取り返しがつかない。犯罪を犯した人間は罪を償うべきだが、それ以上に冤罪での死刑は1人の身にも起きてはならない。
冤罪によって人の命が奪われることがあってはならないため。冤罪の発生をゼロに近付けていくために捜査や取り調べの手法を改める等の努力が必要だと思うが、人間が捜査し、審判をする以上、冤罪をゼロにすることは絶対にできないと思う。冤罪で人の命が奪われる可能性を完全に排除するには、死刑判決の廃止しか方法はないと思う。
中世のような日本の人質司法の元では、冤罪が起こる可能性が非常に高いから。

冒頭にあった賛成の理由一覧は全てそう思うし、「死刑になりたいから犯罪を起こした」という犯罪者が一人でもいる限り反対の理由になる
冤罪を完全に避けることはおそらく不可能であるから
長年、警察や検察による取調べ録画記録の必要性を謳われているのに未だに実現されていない状況では、とても死刑制度存置を容認出来ない
袴田事件など誤審は必ずある。警察の取り調べなども、人道的公平的に行われているとは思わない。
冤罪が起こる可能性があるから
人の命は 何人たりとも奪うことは許されないとと思うからです
個人に殺人の違法性を問う時、制度の極刑に殺人に置くのは説明が出来ない。
冤罪が少なからずしている日本において、死刑制度は危険すぎる。
人間にとって死は乗り越えがたい課題であり、そのために強い信仰、大勢の、宗教を信じる人がいる。現在日本の死刑者の罪状は殺人であるが、その根底にあるのは、人間として越えがたいところに踏み込んで罪を犯したことへの国家社会の罰が死刑なのだと思われる。しかし、何千何万何十万の人間を殺す戦争は、その責任が、その罪とかけ離れて軽いのかとも思う。今、日本の社会は、過去に犯した罪を罰せられている社会だろうか。相手国の人間だけではない、自国民をも自ら殺しているのが戦争である。死刑は、だれがだれを殺しているのか。踏み越えられないところに踏み込んで罰を与える。それが次の殺人の抑止になるのか。次の殺人を抑止するためにあらゆる力を注いで、抑止する社会を形成するしか方法はないのではないか。そのことに全力を傾ける社会には、最大の殺戮行為である戦争も遠ざかるのではないか。殺人には死刑を、敵対国には反撃をの社会の意識は変えられなければならない。
裁判官や死刑執行人に死刑の決定や執行をさせることが残酷だと感じる。自分ならば絶対にやりたくない。これは世間には受け入れられない意見だろうと承知の上で、たとえ被疑者家族などであっても、加害者への死刑を願うことは恐ろしい考えだと思っている。また、賛成の理由とは違うが、死刑制度がどの程度犯罪抑止になっているのかについては、死刑を廃止した国のデータなどを見ればある程度分かると思う。
犯罪者に対しても、人の命を奪うのには反対です。
誤審があって、執行されいたら取返しができないから。
死刑後に冤罪が判明しても取り返しがつかないから
昨今の日本では行政や司法が真っ当に機能しているとは思えない。今後仮に正しく機能するようになったとしても、いずれそうではなくなる可能性は充分に考慮しておくべきではないか。
過去の冤罪事件を考えるとぞつとする
冤罪の可能性を否定できない。
執行する側の負担は計り知れないと思う。心の過重労働だと思う。最近の強盗事件などのニュースを見てると、加害者にとって死刑が最高罰ではないのではないかとも思う。そしたら死刑制度は犯罪の抑止にはならない。
無実の人が死刑執行されませんか
死刑ではなく、終身刑にすべき
冤罪により死刑になった場合、取返しがつかないから。
冤罪に対応できない
死刑理由は沢山あるにせよ、国が国民の生命を抹消するのは反対。保釈無しの無期懲役・寄付義務の労働
犯罪者を死刑にしても、健全な社会が存在しなければ新たな犯罪者が生まれるだけ。

冤罪を防ぎ、のうのうと生きている真犯人を突き止めてほしい。冤罪で死刑になったであろう人が浮かばれない。
死刑は、残酷だ。また、冤罪が発生する限り死刑はあってはならない。刑罰の制度の見直しが必要。
死刑は殺人であることに変わりがないから。
死刑が犯罪抑止に必ずしも役に立たないから。
反省のできない人と誰が決めるのでしょうか。終身刑が最も重い刑とし、心を見つめて生きることが必要でしょう。
犯罪抑止力にならない。目には目という考え方には違うと感じる。
冤罪が横行している中で裁判に信頼性がなくなっています。
冤罪がこれだけあるのにオカシイ 駆け込み死刑執行された人も 檢察の仕組みを変え証拠を開示する事を望みます もっと冤罪が増える可能性が有る
犯罪の抑止のために重刑は必要だが、極刑が死刑である必要はないと考える。冤罪を避け、更生の可能性を残す意味でも死刑は廃止すべき。
正しい判決なのか疑わしかった事例も見られ、死刑ではなく終身刑で良いのではないかと考えるから。
冤罪は防がねばならない。
死刑が相当と思う罪人は存在すると思う。それだけで言えば死刑制度に反対ではない。ただ、・冤罪の可能性・死刑を執行する人の負担・法制度の不備の可能性・裁くのは不完全な人間である・犯罪の抑止効果はあまり期待できない等から、積極的に賛成することもできない。なので、反対寄りの賛成である。
人権を守る立場からも、罪を一生償わせる為にも廃止すべき。
報復感情を満たすことでは犯罪はなくならず、社会環境の改善で犯罪者を減らすことの努力に対する妨げになっていると考えているから。
殺人を犯してはならない事を示すために死刑を行うのは全く筋違いで、死刑も殺人の一つで有り許されない事だ
被害者感情だけを考えると理解はできるが冤罪の可能性があることや国家がひとりの命を奪うことに違和感があり仮釈放無しの終身刑を導入すべき。
冤罪を生む制度である。
基本的には人が他人の命を制御する権利はないと思っているから。
現在の検察組織が官僚的体質であるため組織防衛による冤罪が起こりやすい状況にあると考えます
被害者側の心情は計り知れないものの、償い方は人命ではないと感じるから。そもそも、死刑相当になるような事件を起こすことになったであろう社会の中で起こった背景の方が、ブラッシュアップが必要なのではないか。
刑といえど、人が人の命を奪っていいと思えない
死刑は国家による殺人、犯罪と思う。
不完全でしかない人間が、至宝の命の選択を決定すべきではない。国家が被害者(その関係者)に成り代わって復讐をすることは許せない。
①裁判には誤審・冤罪の可能性がある。②刑罰には”社会からの隔離”の側面もあり、仮釈放なしの終身刑があれば死刑は不要。③極刑とは死刑ではなく、終身刑だと思う。
裁判官も過ちをする可能性がある。
『死刑制度』の国民的議論がほぼ無い中、冤罪=死刑(袴田さんケース)回避できる 死刑執行が時の「政治思惑」に利用される

えん罪の可能性と、死刑制度を廃止しても殺人犯罪の起こるパーセントが変わらないから。
人が人を裁く難しさ。冤罪、権力犯罪もありうる。
袴田さん事件とその後の検察の自己批判精神の無さを見ると、取り返しのできない制度は危険。既に死刑執行していたら絶対に検察は認めないだろう。
検察、警察があまりにも酷い。その中の死刑はとても認められない。
国家が自国民の命を奪うなんて野蛮なことをやってはいけない、獸だって仲間を殺しはしない。まして、えん罪のあることを考えたら死刑制度を廃止する以外に選択肢はない。袴田事件を今一度考えて観ましょう。
人に命を奪う権利は国家であれ人であれ、いずれにも存在し得ず、社会としての自己防衛として危険分子に対処するのであれば、結論は隔離であり、極刑によるメリットは報復感情への対処と隔離に係るコスト削減であると考えるが、社会秩序の為の報復感情等多分に矛盾を孕み、人命をコスト意識で削るような社会を良しとはしない。社会秩序維持の為の必要なコストとして受け入れるべきだと考える。社会に適合しない・できない者は何時の時代も生まれ得る。その者を殺せば解決など傲慢以外の何物でもないであろうと思う。
冤罪の可能性も多々あり、厳罰での犯罪抑止の効果があるとは思えない。死刑を望む殺人犯がいる。
国家が人を殺すことはどういう理由であれダメ。免罪がある以上死刑は廃止すべき。
誤審の可能性がある為
現在の司法制度は権力の介入により、本来の独立性を失い出鱈目なものになっている。えん罪や恣意的な法解釈をするのは司法関係者や政治家に多い。また、人道的な見地からも、死刑制度は廃止して、無期刑を導入すべきである。
みんな魂に仏を持っている。
検察・警察は権力に忖度するし、冤罪が多くて信頼出来ない、加害者は生涯掛けて被害者に謝罪する必要がある。
懲役制度の改編を伴う
日本の検察、警察は、自分の出世のために犯人をでっちあげても平常心でいられる恐ろしい国です。今まで何人の人が冤罪で人生を破壊されたか、空恐ろしい。
検察の自白強要・人質司法による冤罪が絶えず、死刑にしてからでは遅い。絞首刑は残酷。社会の変化に沿つて、罰則や更生の方法も検証・変革すべき。日本は一事が万事、変えられない国だ。
公共の福祉？(人権擁護)的な観点から、犯罪者への刑罰は致し方ないものだ。だが犯罪者も非犯罪者と同様に人権を有していると共に、刑罰はその人権を侵害するものである。人権を有する者への人権制限は、どの様な場合であれ必要最小限度(その基準については要議論だが)に留めるべきだと考える。そして死刑や身体刑など、被害者に著しい身体的苦痛を与える刑罰はその原則から明らかに逸脱している。
犯罪を犯す可能性は誰しもにあり、社会全体の問題でもある中、犯罪者個人を殺せばいいという考え方はあまりにも短絡的である、また冤罪率が高い我が国において、罪のない国民を、誤って死刑にしてしまう可能性を、何も解決できていないと考えるため。
冤罪がなくなっていない
冤罪を排除する為
誤審の可能性がある為。
終身刑と強制労働を導入すること前提です。
最高刑を終身刑にして、受刑者に安楽死を選択できるようにする。

冤罪の可能性がある以上、終身刑を最高刑とすべき。

1. 数々の冤罪疑いのある事件に対する死刑判決 →死刑判決が誤りだった場合、国によって奪われた時間や命は取り戻しがつかない。2. 死刑執行する者への心理的負担 3. 国家権力が濫用する恐れ →国が合法的に人を殺すことのできる仕組みは無くした方がいい。

死が最高の償いだとは思われない。どのような犯罪であれそれを生み出した社会全体がその事実を受け止めることが成熟した社会に向かうと思う。冤罪の再審もそれに含まれる。

犯罪の抑止にならない。冤罪が多すぎる。実際に執行する人の負担。

他国を見ても未だ死刑制度はおかしい

自殺者数が年々増えている昨今、死刑制度が犯罪抑止になっているとは思えない。死刑にして終わらせるのではなく、なぜ罪を犯してしまったのか、社会的背景にある問題点や人の心理を追求するべき。

これまで発生してきた冤罪を考えると、将来も冤罪の発生の可能性があり、死刑を執行してしまうと取り戻しがつかないから。

犯罪を犯すまでに様々な背景があります。死刑にするとその背景が永久に分からなくなることがあります。よりよい社会を目指すために、様々な角度から社会構造を変える必要がないのかを常に考える必要があります。その事情や背景を探る姿勢を維持するために、よりよく変化していくために死刑を行うべきではありません。また、死刑制度が権力者の隠蔽行動につながる危険性もあります。被害者の心情についても、犯罪被害者が心身健やかに過ごすためには、いつかは犯罪者を許さざるを得ず、そこに死刑の有無はあまり関係していないのではないかでしょうか？死んでしまっても恨みの感情が晴れない限りは、健やかに過ごせませんから。個人の問題ではなく社会の構造を変えて、同じような被害者が出ないようにしていくしか、気持ちが晴れる方法はないのではないかと思います。また、強いストレスが外に向いてしまった場合に犯罪になると思います。内に向かった場合は自殺になります。死刑制度を維持するのなら、内に向かう自殺も同時に厳罰化せねば道理が通りません。また外に向かう時、自分より弱い者に向かいやすいです。追い詰められて思考力も低下している人が、そのストレスの原因を把握しないまま、ストレスの向かう先を決断することは困難だと思います。それよりもストレス事態を溜めない社会構造やストレスを解消する手助けが必要で、死刑制度がその抑止力になるとは思えません。死刑の可能性があるほどの強烈なストレスを抱えた時、死刑制度の有無が思考の正常化の助けになるとは思えません。

1.冤罪の可能性があるので。2.死刑があっても抑止力にならないので。3.刑罰は恨みを晴らす制度ではないので 4. 犯人を死刑にしても被害者は戻らないので

体制による殺人です。どのような立場であり、いかなる理由があるとも 人の命を奪っていいはずがありません。

人が人を裁けない。

死刑制度の有無が凶悪犯罪数に関連していないと考えているため。殺人などの凶悪犯罪は、犯罪者が死刑はなりたくない、などと考えて衝動がおさまる、とは到底考えにくいです。

反対派の中に「死刑よりも重い罰がない」という意見を聞くことがあります。私はそうは思いません。人は死して反省が出来るでしょうか。そもそも思いません。罪を犯した人間は自分の犯した事実を客観的に知り徹底的に分析し自らの行動でどれだけ他者を苦しめているのかを深く理解するまでは死んではいけないと思います。自死する人は苦しみから逃れるために死を選びます。生きることは死より辛いのです。考える事を放棄させ死刑執行まで何もさせず待っているだけという今の死刑制度は罪を犯した人間にある意味ご褒美を与えていたりだと思います。死刑囚は学ぶべきだし国の税金を使ってでも学ぶ機会を与えるべき。そしてもしその囚人が心からの理解と反省を持つことが出来たらそこから苦しみが始まる。絶対に自死を許してはいけない。寿命が尽きるまでその苦しみと向き合ってこそ償いになるのではないかでしょうか。税金の無駄ではないと思います。死刑制度

があっても凶悪犯罪抑止力にならずただただ死刑執行の繰り返しでは全く建設的ではない。犯罪被害者、遺族は犯人が死刑になろうが報われません。
人間に人間の命を奪う判定はできない
どんな理由でも国家が人の死を左右するのは納得できない。無期懲役刑で良い。
冤罪がある以上死刑は不均衡。非人道的。
死刑は国家権力による殺人。絞首刑の実態を知れば、残虐な方法であることも明白。かつ、犯罪抑止の効果についても相当にあやしい。ノルウェーの刑務所のように、寛容さで再犯率が下がっている実例もある。
どんな理由でも、国家の名においての殺人場許されない。えん罪で死刑になれば取り返しができない。被害者の家族の無念、怒りに対しての報復殺人になる。
犯罪者であっても、憲法で保障される生存権は最優先されるべきと考えます。
もはや死刑制度が凶悪犯罪の抑止になっているとは思えず、むしろ「死を以て罪を贖う」こと自体に矛盾を感じる。また、冤罪は100%起きないとは言えず、これを正す機会を失うリスクの方が大きい。
死刑は大変重い処罰であり、判決を下した人にもかなりの負荷がかかる。人が人を裁くとき間違いをおかすこともあり得る。命には命をもって償うというのには甚だ疑問を感じる。
死刑制度に、犯罪の抑止効果はないから。
南無阿弥陀仏
冤罪だった場合、取り返せない
冤罪がある。そもそも日本政府が人を殺すことに罪が無いのがおかしい！
冤罪がある。
正直迷う。冤罪があることを思うと廃止すべきと思うが、凶悪な犯罪を考え遺族の心情を思うとあってもよい気がするしわからないというのが本音です。
冤罪で死刑にされる人を防ぐため。
厳罰主義の風潮は、恐ろしいものがある。取り返せない冤罪による死刑は、国家犯罪であり、また、国家が国民を処刑すること自体に反対である。
国家が殺人することは、倫理上許されない
世界的にみても廃止している国が圧倒的。被害者・親族の心情を考えると死刑になった事ではれるはどうてい思えず、一生をかけて報いを受ける事で被害者も報われる
袴田事件に明らかなように、冤罪となった場合、取り返しのつかない事にならうため
冤罪で死刑に至るケースもゼロとは言えない。「たとえ10人の真犯人を逃したとしても、1人の無実の人を処罰しては絶対にならない」のである。ことに、我が国は、自白偏重であり、且つ、人質司法でもあることから、冤罪を生み出す危険が大きい。免田さんのケースは實際には氷山の一角である可能性が高い。
冤罪の可能性がある限り避けるべき
被害者遺族になったら、犯人を殺したいと思うだろうが、死刑は、国による殺人に他ならないのではないのか。終身刑で償わせるしかないだろう。
人が裁く以上、間違いは必ず生ずる。権力者が恣意的に使うことも可能。国家が死の決定を下す制度に恐怖を覚える。
冤罪が必ずあります。
人が人を殺してはいけない。

被害者のことを考えると、、、出所しても、また起こしそうで、どっか違うところに移住させるってのもありだとは思う。 そこでも、起こしたらって考えたら、、、
例え凶悪犯罪者でも死刑は人権侵害である。
死刑は単なる復讐に過ぎない。死刑執行により救われる者は、誰一人と居ない。
国家が人を殺すのは嫌です。
冤罪があった場合には取り返しがつかない。しかもその冤罪がなくならない。
冤罪が後を絶たないから。野蛮であるから。
裁判は無謬ではない。冤罪事件も後を絶たない。最高刑を仮釈放なしの無期懲役に。
どうしても、冤罪がある。また、無期懲役の方が実際は厳しいのでは。
冤罪であった場合、命は取り返しがつかない。また、冤罪でなくとも死刑にするより生きて償わせるべき。
死刑に関与する裁判官や刑務官の負担が大きい。冤罪に関与してしまうおそれのある刑事裁判官の人気がなくなったことが裁判員裁判の導入の根本原因。英米法下の陪審員が有罪無罪に関与するにとどまるのとは異なり、日本の裁判員裁判が重大犯罪に限り量刑まで決めるのは裁判官の心理的負担を軽減するため。キャリア裁判官制度の下では刑事部に配属されると一生刑事裁判官。受験戦争を勝ち抜いた結果配属されたのが刑事部だと面白くないと思う。
死刑より、生きて罪を償うことの方が人として大事なことだと思う。
犯罪の抑止になるとは思えない冤罪の可能性が否定できない
警察、検察の取り調べが恣意的であり、公正ではない。その期間が死刑を求刑するのはおかしい。
どんな人でも人間の尊厳を尊重するべき そして罪を犯した人が死ぬまで刑務所で悔い改めてほしいため
多くの冤罪を生んでしまっている現状を鑑みると、死刑は取り戻しの出来ない手段です。死刑ではなく、無期懲役。ただし、単なる無期懲役ではなく、海外の制度のように懲役〇百年と云うような、投獄後に減刑されても出所が実現しないような懲役刑を成立させるべき。
袴田巖さんの冤罪により死刑判決を受け、無実なのに死の恐怖に晒された、取り返しのつかない年月、国家が処刑する制度は廃止。オウムサリン事件を犯した人達を死刑にして終りにしたくない。生きて贖罪の道を歩んでほしかった。
どんな人でも我々が死刑にする権利はないと思うから。
人命を奪ってはならない。人間社会の大原則。死刑しかり、戦争しかり。
とても難しいテーマで正直今も迷っています。死刑を廃止した場合の凶悪犯の処遇をどうするか?しかし国家による殺人は問題だと思う
命を絶つことは簡単で一瞬であるが、行動を制限された中で一生を終えることは想像を絶する苦痛・苦悩・絶望であろう。それ以上が必要であろうか?でっち上げで死刑判決が下された袴田さんを見たらその悲惨さが分かるかと思う(そもそも無罪ですが)。自分はそのことに税金が使われることについて、賛成である。刑期の途中に、心を入れ替えるヒトもいるかと思う。自分は公的に守って、社会復帰させてあげれば良いと思っている。命は尊いので、再度、生きていくチャンスを会えてあげても良いのではないか?世の中には本当の悪もいる。でも、周囲に支えられなくて仕方なく悪ぶっている人もいて、結果的に犯罪を起こす。仮に死刑等の重罪を犯しても、その内容や、犯罪者の反省度合、その人間性を見て、社会復帰するチャンスを与えてやってもよい寛容な社会にはならないだろうか
国家による殺人であり、どのような理由でも人を殺してはならない。

政治家はくず警察もくず司法もくず言うのは簡単でも執行する人がトラウマなる
死刑ではなくコストはかかるけど終身刑がよい。人は変わりうる。
誤った判決で死刑執行してしまうと、後戻りできない。人の命は復元できない。
警察・検察の密室で捜査されている。その過程が非公開である。
冤罪の方が死刑にならたら取り返しがつかないこと。犯罪抑止力にはならない(死刑になりたいから犯罪を犯す人もいる)こと。
死刑制度は、刑罰に名を借りた人命を奪う行為だからです。国に国民の命を奪う権利を与えてはいけない。免罪であった場合、仮に執行された後であれば、取り返すことのできない過ちを犯すことになる。人は生きながら自らの犯した罪と向き合うべきだと思う。
人の命を左右することは、誰にもできないことだと思う。
以前より死刑制度には納得できなかった。同じ人間が他人を裁くとはとっても重い責任を感じ後の人生にも影響を与えると思う。
国連から死刑廃止を迫られている他、巻き添え自殺が増えている、冤罪をなくすためには死刑より終身懲役に切り替えるしかない
誤審・冤罪事件が繰り返される現状の警察・検察・司法の改善が見込めない以上、善良な市民を誤審で処刑する可能性を排除するためには死刑廃止しか方法がない。憲法違反であり、反対する理由がない。
国が命を奪うことは戦争と一緒にだから。
憲法が禁止している残虐な刑罰に該当すると考えるから。
人間の自己変革の能力を否定することになるから。人間性の敗北となるから。
酌量・減刑・恩赦無しの終身刑にする。そして 終身刑に相当する犯罪が繰り返されないように、その者を研究対象とする。社会との繋がりはそれのみ、他の全ての繋がりを断つ。研究の結果を社会に還元する。その者の資産、将来的な遺産も含め没収し、被害者(と家族)と刑務所の運営費の一部とする。なぜ犯罪が行われたのかが解明されないまま死刑では同じ犯罪が起こる可能性がある。それを止めるために。
無実の人が、警察や検察によるハラスマントを伴う誘導尋問、証拠捏造などの冤罪で死刑になってしまう例を多数見てきたから。死刑賛成派の理由として、遺族の感情を擧げる者がいるが、個人の情緒や感情といった主観的なものによって量刑が重くなってしまうのは、成熟した先進国家の姿勢ではないから。また、かつては死刑制度を維持、運用していた多くの国が、歴史の流れとともに取りやめてきており、それによって犯罪率が表立って増えたという現象もない。さらに、イギリスやフランスが法務省の死刑執行を非難していることについて、「ヨーロッパならその場で射殺」と反論する者がいるが、それは危険物を持っている被疑者を拘束する際にやむを得ず行った行為であり、刑の執行と議論を混同していると思う。
冤罪の可能性のほか、死刑で処罰すること、死で解決しようとするに違和感があります。犯罪によっては精神的なケアや社会的なケアの方が必要な場合あるいは生涯をかけて別の形で償うなどもあるかとおもいます。
冤罪が怖い。
人が人を殺す事事態矛盾してます
被害者遺族原田正治氏の著書を読み、考えさせられたから。また、冤罪だった場合取り返しがつかないから。
世界の中で死刑制度を存続させている国がたいへん少なくなってきた。冤罪が起こることがどうしても否定できないこともあり、死刑制度廃止に賛同する。刑事事件での取り調べ手法、入管でも、国家が絡む案件など、戦前のやり方が残り、また、間違えを認めない無謬的な考えが蔓延っている。抜本的な改革が必要であり、その象徴の一つである死刑制度廃止を行うべきと考える。

犯罪の抑止につながらない。やはり、人が人を殺すことを認めていけない。

冤罪で死刑判決を行っている日本の司法制度で、死刑制度はもっての他です。死刑制度を即刻廃止することに強く賛成します。

冤罪があるから

冤罪を無くすことは出来ないからです。

冤罪の場合、取り返しがつかない。今の、自白主義では間違いが起こる。更に、死刑廃止は世界の潮流

反対理由の①と②については、同様の感情を持ってしまうが、何人もの冤罪事件があったこと。警察、検察、司法を信用することができないので、反対とします。

たとえそれが極めて残虐で許しがたい行為だと誰もが認めるとしても、行為者がその行為に至った因果の連鎖を恣意的に断ち切って、その行為の責任を行為者だけに負わせることは不合理。刑罰の前提となる「責任」概念自体、人類が社会を維持するために歴史的に作り上げたものだし、責任を負うべき主体としての人間にそもそも「自由意志」があるのか結論は出でていない。人は誰も生まれてくる環境(時代・場所・家庭など)や遺伝的特徴を選ぶことができない。こうした人間存在の根源的無責任性を考えれば、社会秩序を維持するために刑罰制度が必要だとしても、そのために生命まで奪うのは明らかに行き過ぎだと思う。

死刑制度が犯罪抑止になっているとは思えない。また刑務官にも精神的負担がかかる上、取り返しのつかないことから裁判に関わるひとの負担にもなる。代わりに終身刑の導入を検討し、労役分のコストも含め比較が必要である。

判決が誤っている場合もある。刑を執行するのは人である。複数人でボタンを押し、個人が死刑執行する負担を軽減する工夫はあるが、執行人にはトラウマを抱えさせる問題が生じるだろう。死刑になりたくて無差別殺人を起こす例は多い。受刑者を獄中で生かすコストを理由にするのは死刑制度の是非を問う事の重大さと別次元。罰は生涯をかけて他者の命を奪った人への謝罪にかけるべき。

冤罪によって命が奪われる可能性がある。また重大犯罪の抑止効果も実際は薄いから。

冤罪の可能性があるため。

いかなる理由があろうとも、国家が人命を奪うことを制度にしてはいけない。

他者の人権を著しく侵犯した人に人権(生存権)を認めない。死刑制度は必要なのですが、現実を見ると冤罪が多過ぎます。警察や検察が犯行や動機、証拠を捏造し、出世の道具にしている現状で死刑制度は危険極まりない。故宅間さん、どう考へても大量殺人の現行犯、こちらにしても、検察/警察/報道機関の信頼が失墜した今、報道される内容からして真実と鵜呑みにする事ができない。和歌山カレー事件の真犯人も権力者であると言われていて、死刑囚は未だに再審請求をして「人生を奪われたまま」でいる。人間が完璧になれば死刑制度は復活されるべき。(その日は来ないと言うことです。)変わりに終身刑、大量殺人などの罪の重さに応じての刑務を課すのが良いと思います。(1人殺害と 10 人殺害が同じでは困る。) 被害者/遺族が真に求めるのは、真犯人の気づきです。どれほどの事をやってしまったのかの真の意味に気づいてくれること。

絶対に判決に間違いが無いと言えない。犯罪者は、保護して更生させるのが基本的考えだ。

完全に賛成とは言い切れないが、「死刑になりたかった」という動機の殺人の抑止にはなる

生命の尊厳。

最大の人権蹂躪

数々の冤罪事案を鑑みたら、死刑制度に危険があるから。

検察、警察の捏造事案があまりにも酷い。検察、警察の改革をすべきである。無実の方が死刑にならないように一旦廃止すべきである。

死刑は犯罪の抑止にもならないし、加害者および被害者遺族の眞の救済にも繋がらないと考えるから。死刑は逆に、その事件の究明を妨げ、眞実の追及をあきらめることに等しいと考えるから。

人道上の理由から

感情論を抑えた理性的な思考が苦手で、権力者や強者の不正にも甘い日本人が死刑制度を存続させることは、冤罪を多数放置することにもつながり、人権の侵害を拡大することにしかならない。未熟な国民が他人の生命を奪える制度を持つことは非常に危険だと考える。

冤罪の可能性がある限りあってはならない制度

死刑の名の元、国家が殺人することに反対です。死刑には冤罪の可能性があります。飯塚事件の久間さんは冤罪で殺されたと私は思っています。また、殺人の被害者や遺族に対して社会が悲しみを癒せるようにしなくてはならないと思います。加害者に死をもって償わせるのではなく、別の償わせ方を考えなければならないと思います。

捜査の公正性や誤審の懸念が否定できない為

以前は死刑制度に賛成だったが、冤罪や納得できない司法判断などを見るにつけて司法そのものに対する信頼が薄らいできたため。

死刑には必ず死刑執行人が存在しなければならない。ところが、ある宗教では「汝、殺すなかれ」という戒めがあり、この教義について日本国憲法は、第十九条思想・良心の自由を侵してはならない、および第二十条信教の自由の保障によって、この戒めを含めた教義の尊重について一定の配慮を示している。よって日本国民の誰がどの宗教を尊崇・尊重しているかは、先の憲法条文によって国の関知を認めていないということ、そしてこのことは死刑執行人についても同じことが言えるので、信教の自由を認める国においては、そもそも死刑制度自体が成立しないと考える。

冤罪がある以上、無罪で死刑にされる人が出てしまうのは許されない

死刑は犯罪の抑止力になっていない。それどころか、「死刑になりたいから」という理由で殺人が行われる事件が現に起きていて、犯罪を助長する可能性も高いから。

どんな理由があっても人が他者の命を奪う権利はない。それは犯罪であろうが合法であろうが、他者の命を奪うことは殺人であり、合法でも人権侵害行為だから。

人が(自分自身も含めて)生命を奪うことはあってはならない

終身刑があれば別に死刑制度はなくても良い

国家に人命を奪う権利を与えることに反対。

今まで冤罪がいくつあったか…袴田さんの件から尚更 檢察は信用出来なくなつた

誤審を完全になくすことは不可能。国家が人の命をあやまって奪う可能性のある死刑制度は廃止した方が良い。

冤罪の可能性が0ではないから。

人を殺すことは、叡智のある人類のるべきことではない。それが刑罰でも例外ではない。

難しいですが、冤罪の可能性があることが1番であり、国が人を殺める事は正しいのか疑問に思います。先進国としては遺族の支援や死刑制度を廃止した場合の対応など国会、国民投票も含めて決めた方がいいと思います
死刑は人が人を殺す事だから。

死刑制度は人権を根本で否定してる

被害者心理からすると 死刑もありかとは 思います。しかし、加害者が死刑になったとしても 被害者は 本当に 心が癒やされるのでしょうか？ 終身刑で 恩赦にも値せず 死ぬまで 刑務所にいる方が よいのではない

でしょうか。

冤罪が事実おこっていることを考えれば、死刑は後戻り出来ない事になる。

極刑がなければ何をしても構わないと思う人がいる加害者より被害者家族の気持ちを1番に考えるべき

人は間違う。だから間違って人を死刑にする事もある。人は人を殺してはいけない。罪を犯した人は一生かけて償う方が良い。

議論の内容を見ましたが、日本人はこの問題について議論できるほどの下地がないことがよくわかりました。死や犯罪について自分ごととして思考あるいは哲学することができていないので、中高生あるいは小学生でも言えるような意味のない言い合いで終わっています。議論を深めるためには、運営側がきちんと材料を提示し、場合によってはリードして、面白くためになる、話題にしたくなるような議論にしないと、広まることなく終わります。投票が全然集まっているのも無理からぬことです。主催、運営の方への意見になってしましましたが、模擬国民投票の第一回のテーマとして「死刑制度」(あと消費税も)は大失敗だったと思います。死刑はもっとも重い、あるいは残忍な刑罰でしょうか。私はそうは思いません。今の世の中、死にたがっている人があまりにも多いことの方がよほど大問題です。刑罰は、罪に対して社会全体がどう向き合うべきか、という約束事です。死刑に処すべきではないか、という重い犯罪であればあるほど、その後もずっと社会全体でそのことを考え続けなくなりません。なぜそんなことが起ったのか、そのとき社会はどんなだったのか。最近少しだけ(もっと報道されるべきなのに)話題になった、冤罪だとわかったあの事件や、冤罪だったかもしれないあの事件について、どれだけの人が考えを巡らせたでしょうか。 まずは安楽死について議論すべきだと思います。

袴田事件をみても明らかなどおり、死刑は取り返しがつかない。人の裁判に、絶対はない。相対的な営みに過ぎない刑事司法において、命を奪うという絶対的な刑罰を科すことはできない。先進国はほぼ死刑を廃止している。日本も野蛮な国から先進国へ。

犯罪は教育を始めとした国の各種の政策の失敗によるもの 何であれ、人が人を殺すことは悪である

人間の尊厳を踏み躡り、国家による殺人行為である。

受刑者は生涯罪を償うべきである

警察検察が信頼できず、裁判の結果も完璧とは考えていないから。

冤罪があるから

遺族の感情はもちろん理解できるが、死刑が執行されても被害者は戻ってこない。一生かけて償うような形の別の刑を望みます。

死刑を実行する方の精神的負担が大きい

個別の事件の詳細を知れば知るほど、警察・検察の思い込み捜査やでっち上げ、被告に有利な証拠の非開示などがあることがわかるので。

袴田事件をはじめ、冤罪が今も生まれている。その奪われた人生をどう考えるのか。謝罪の言葉やお金で償える事ではない。警察、検察のメンツの為、今も無実の人が独房で精神を蝕まれているのではないかと思う。

被害者家族の感情ばかりを重要視することはハムラビ法典に戻るようなものだ。司法(人間)の不完全性(冤罪等)だけを考えて死は死刑は廃止すべきだ。無期懲役で死刑囚が釈放されることが問題なら終身刑を考えればよい。死刑囚には死ぬまで反省を求めるべきだ。

冤罪をせっせと作ってるから。冤罪が確定しても反省も謝罪もしないから。

死刑で犯罪は抑止できない。冤罪があった場合、全く取り返しがつかない。

冤罪が起きない、起こさないようにすることが最重要。取り調べ等の可視化、証拠の全面開示など、徹底させ、再度死刑制度について検討するべき。

誰も人の命を奪うことはできないから。
それも絞首刑。国連の死刑廃止条約が発効されているにもかかわらず、この状況。廃止できないのであれば、主要国首脳会議、G7 のメンバー国から退くべきです。
冤罪の場合、死刑になつたら取り返しがつかない。また、死刑が犯罪の抑止になつてないと感じる。
冤罪がある。
如何なる理由があつても殺人は、認められない。
死刑が凶悪犯罪の抑止力になつてないこと、死刑を決める制度(裁判)があまりにも不確実というか 99%以上が有罪って絶対おかしい。実は積極的ではないが廃止に賛成。
検察が役割を果たさず免罪を生むような現状、国による殺人をこれ以上 止めるべき
野蛮人からの脱却。生き物の命を奪う行為は何者であろうと許されない。
生きて償うことに意味があると思うからです。
誤審の場合に取り返しがつかない。国家に人を殺す権限を付与すべきではない。
死刑の決行ボタンを押す方々の心を削ってすることが仕事とは思えない
死んで償える罪はない
刑期の定めのない無期懲役ではなく、終身刑を導入することで死刑の代替刑になると思うから。人の生死を法律で強制をすべきではない。
殺人犯の命を奪って罪を償わせることは単なる暴力の連鎖に過ぎず、死刑制度は知的生物の文明として有り得ない。日本が中世ジャッ普ランドと国内外から批判される要因にもなる。
冤罪で極刑に処せられる恐れはゼロでないため。自分自身を、犯罪被害者の家族の立場において想像した時と、冤罪で死刑に処せられる立場において想像した時とでは、前者の怒り・恨みより後者の恐怖の方が大きいと思ったため。
袴田さんがいい例。
終身刑で十分
被害者・遺族への弁償を徹底する条件付きで賛成。それには「刑務所產品」の豊富化が必要かな?
・法の下、国家権力による殺人である。・自白の強要、冤罪の可能性がゼロではない。・「死刑になりたい」と無差別殺人の引き金になっている。・犯罪は、社会的な背景と犯罪が起きてしまう構造的な問題がある。犯人を排除するように死刑にしても、犯罪が生まれる根本的な問題の解決にはつながらない。・犯人だけが犯行の動機を知っている。死刑によってそれが分からなくなり、次の犯罪を防げない。・被害者の親しい人は「なぜそんなことをしたのか」という理由が知りたい。その理由も、永遠に知ることができなくなり、死刑執行によって遺族の気持ちの整理がつくことにはならない。
人間の生死を人間が決定すべきではない。誰にでも更生する機会があるべき。冤罪は、いつの世でもあり得る。
冤罪は無くならないので
先進国を始め世界の動向は野蛮な「死刑制度」は廃止となっている。日本も、「死刑」に代わるものとして「終身刑」に置き換えればよいことです。
極刑を望むほどの重罪を犯した者に対しても「死をもって罪を償わせる」ことは苦しすぎる。誤審もありうるわけで取り返しがつかない人権侵害である。
冤罪の可能性がある
・冤罪の場合には取り返しがつかない。執行前に袴田さんは釈放されてそれだって取り返しがつかないが、でも

死刑が執行してしまえば本当に償うことすらできなくなってしまう。・そもそも人質司法や有罪率99%など含めて日本の警察検察のあり方自体が問題のあるものなのでそれらと共に考える必要があると思う。・日本人の他罰思考(悪い奴を罰してやりたい痛めつけてやりたい)は常軌を逸していると思う。

人を殺め死刑となる。死刑となる人を殺めるのもまた人である。この連鎖は想像に耐え難い。個人であれ国家であれ、殺人は許されない。

死刑制度が有ろうが無かろうが、凶悪犯罪は起きるので、抑止としての効果は期待出来ないし、人間の判断による誤審は起こり続けるので、ある意味、裁判官を騙し洗脳してしまえば、関わりのない人を死刑にだつて出来てしまふ危うい状態です。被害者、遺族に寄り添うことは大切でしょうが、状況証拠ではない確実な証拠でもなければ、捏造された証拠により自らが死刑にされる可能性があるのは、恐ろしい事ですね。

冤罪事件が続いている現状から死刑には賛成できない。

死刑とは国家が国民を死に至らしめること。これを正当化する権力行使は、いかなる事態においても基本的にあってはならない、と考える。

犯罪抑止効果も死刑を恐れない犯罪者では、抑止できない。冤罪事案はこれから未来もずっとおきる可能性がある。死刑を執行する人の心を考えると、私は死刑を反対する。

冤罪が多すぎる

人の命を奪う権利は誰にも無い。被害者の関係者の想いは想像することしかできないが、処刑されたから忘れられるとか許せるということは無いのではないかと思う。

非常に難しい問題 死刑廃止なら恩赦や特赦等を適用しない終身刑を導入すべきだと思う 知りたいのは受刑者に対する税金がどの位なのでしょうか

どんな理由があるにせよ、自分は人に殺されたくない。

人が人の命を絶つことは赦されないと考えます。また、裁判には冤罪や誤審の可能性が排除できません。

先進国では当たり前。日本は冤罪が多い。

血あがなうのは、結局血の犠牲を肯定するものだと思う なぜ犯行が食い止められなかったのか?更生にはどうしたらいいのか?生かしてその失敗を活かして欲しい

人間が人間を殺してはいけない

判決を下す人も人なので、判断を間違えないとは限らず、命を奪つてから間違つて分かっても取り返しがつかないので、死刑自体無い方が良いと思うから

小石さんのように「死刑に近い、出所が無い無期懲役+ α の制度を考えたらいい」という意見にはものすごい違和感があります。私は今回、死刑制度廃止に賛成します。ただ、これは消極的な賛成です。理由は、死刑を執行する執行官が存在するからです。すでに無抵抗になっている人間を、国家の命令を受けた個人が執行することがあってはならないと考えています。それは機械を使って安楽死させる場合にも同様で、機械を設計した人、機械を作動させた人がいてはいけないと考えます。さらに言えば、終身刑に+ α した場合、それを執行する人は人としての尊厳を保てるでしょうか。甚だ疑問です。自分は执行人にはならないと思っていないと言えないと私は思います。执行人を、人の死に対する敷居が低い人を执行人にはいけないとという考え方にも反対です。それこそ死刑や人の死を別のものに変えてしまう危険な考え方であると思います。私は昔、被害者のためにも死刑は当たり前だと思っていました。ですが、光市母子殺人事件についていろいろ調べていくうちに、そもそも裁判制度は被害者のために行われるものではないことを知りました。ほとんどの人は死刑は被害者にとって必要だと考えると思うのですが、逆に死刑が被害者のためであってはいけないと私は思います。裁判や刑法はあくまでも社会秩序を守るためのものである必要があり、なのに国の命令を受けて執行する個人が存在することは許容できません。

袴田さんのような誤審があるので。死刑執行されたオウム信者からは、まだ重要な証言を得られたと思うので冤罪がある。國家が殺人を犯してはならない。
人道的でないため。
死刑は殺人などの罪を想像しがちであるが国家転覆罪などの罪でも死刑になる他国の例などを考えると その時の政権に恣意的に利用されるリスクがある
誤審が起こりうる中、命を奪うことはあまりにもリスクが高く非人道的で取り返しがつかないため。
死刑決行後の誤審発覚の事例が、決して少ないとは言いきれないから。ただ、被害者からすれば、加害者が生きていることは恐怖でしかないので 死刑精度を廃止するのであれば、重大犯罪へのそれ相応の刑罰を与えるべきであると考える。
廃止に賛成であるが、その代わり量刑を全体的に重くする必要がある。また、懲役年数や罰金も罪の分加算する必要がある。量刑はそのままで、死刑を単純に廃止するだけであるのは反対。
死刑制度が犯罪の抑止力になっているとは思えない。犯罪を犯す人、殺人の場合、死刑になりたくないからその行動を止める、というのは私には想像できない。
冤罪の場合、取り返しがつかない。死刑になりたいという理由で犯罪をおかす人がおり、抑止にならない。
犯罪者に刑務所を三食昼寝付きととらえられたら困るが、生き続けて罪を償う方が過酷だと思っている。
犯罪を起こすことのないよう、社会保障や教育の充実が条件で、現状では、難しくも、将来的には廃止の方向で賛成です。
誰にも人の命を奪う行為は許されないと考えるからです。特に最近の法務大臣に執行の最終判断が委ねられている現状が最大の問題であると思います。
誤審を避けられない。
現在の司法を信用出来ないからです。冤罪で死刑などあってはならないとおもいます。
人が人の命を奪うことに変わりはなく、判断を誤る可能性は常に付き纏う。
国家権力による殺人に反対。人権侵害から冤罪の恐れ。
現在でも冤罪が起きており再審請求中の受刑者の死刑執行が行われている現状を見ると、明らかな犯罪者以外は死刑執行すべきではない
裁判の誤審がある以上国家による人殺しはすべきでない。
条件付き賛成。死刑廃止国の世論は概ね廃止について肯定的らしい。なぜそうなっているのかを国が調査し、その理由が妥当であれば日本国民を啓蒙して欲しい。その上での国民投票なら意味がある。
死刑を執行することにより、なぜ罪を犯してしまったのか、その人の環境による要因があるなら社会改革もいるだろうし、そういう議論や改革をやめてしまうことになる。
人権を完全に剥奪することを最高刑とすることには賛成、しかし終身刑であっても可能。リスクを考えると終身刑採用が妥当で、終身刑が適用されないのであれば死刑制度の維持もやむなし。ただし死刑制度の維持のためには、最低でも取調べ完全可視化と弁護士同席が必須と考えている。AI計算で年間5億円程度のコスト増だが、労働力人口あたり10円以下であるし、やる意義はある。
1の冤罪の存在が最大の理由。その他、世界各国の状況や人道に反する刑であること
死刑になりたくないから。制度があれば、必ず誰かが人身御供になるから。
冤罪での死刑があつてはならない。
「死刑制度廃止の是非に関する議論」を視聴しました。袴田事件によりえん罪の恐ろしさが分かりましたが、たと

ええん罪で無くとも、死刑判決は人の精神を破壊すると思います。死刑囚は刑執行の当日にその事を知られると聞きました。執行の無い土日以外はいつ殺されるか分からない恐怖に怯え続け正常な判断が出来ない状態で、自身が犯した罪に向き合う余裕の無いまま死なせる事は社会的に何の意味も無いと思います。時間と大きなコストがかかりますが、なぜその事が起こったのか、起こらないようにするにはどうすれば良いのかを市民をまじえて考え、より良い社会にするため活かした方が良いと個人的には思います。条件が揃ってしまえば誰でも犯罪者になる可能性があり、犯罪を犯す条件が揃わない環境、社会にした方が良いと考えます。

誤審の可能性が一番の理由だが、廃止反対派の「やまゆり園」事件の犯人みたいなケースはどうしようもない「から」、死刑にするしかないという論理がどうしても分からぬ。あと、執行する人間の負担も重すぎる。安楽死が法制化されている国でも、現場の医師が深刻な問題を抱えてしまうようになるのと同じ。

反対意見 4 の、受刑者を税金で養うのは税金の無駄というのは、受け入れられないです

冤罪などで誤って死刑執行した場合は、取り返しがつかない。死刑以外でも刑を償う行為は可能と考えるため。

冤罪で死刑になってしまう可能性がある。加害者を生んでしまった社会にも責任がある。という認識が必要ではないか。

人間が愚かで間違う生き物だから。裁判官も検察も間違える。犯罪者は社会貢献の形で罪を償うべき。犯罪者の投票権も人権として認めるべき。

そもそも、裁判自体完璧ではないし、死刑で事が完結するとは思っていない。

簡単に死を迎えてはいけない。生涯罪と向き合う必要がある

最高刑として必要な効果は、社会から当該犯罪者の存在を隔離・排除することであり、そのための方法としては生命を絶つではなく終身刑でも同様の効果を得られる。また、人間が判断することによる不確実性については、例えば終身刑として 30 年服役したのちに冤罪であることが明らかになった場合、その 30 年に関しては完全な回復・償いをすることができないものの、死刑に関しては完全な不可逆であり、全く次元の異なるものである。加えて、社会の安全性という観点からは、残忍な犯罪行為に至った経緯・背景・原因を究明し、類似の犯罪が発生しない方策を講じるべきであるところ、死刑を執行してしまうことで、それすらできなくなってしまう。(オウム真理教しかし、池田小学校しかし)

誤審による死刑は取り返しのつかない人権侵害である。

冤罪の可能性があるから。捜査機関が十分かつ適切な捜査を尽くしていると言い難い状況があるから。殺人を社会が許容することになるから。

誤審のおそれがある。死刑を廃止しても凶悪事件は増えない。また死刑執行をする刑務所職員の精神的負担を考慮すべきだ

袴田巖さんの件しかし、冤罪がこれほど多いのだから死刑制度を維持することなどあってはならない。死刑レベルの犯罪者が居たとしても死刑ではなく無期懲役で良い。

不完全な更生の状態で社会に戻らなければ良いので、終身刑でも十分。

死刑判決は大変重いものですし、それに至る経緯も重く、長い年月、多くの方々が関わるわけで、長い年月の間に人は変わっていくことが出来るの 死刑という恐怖は 犯罪を犯した人だけでなく、携わることになる人にも恐怖の経験を持つ 危険ならば長い服役によって限られた社会で一生を終えられるようにしたら良いと思う。旧約聖書に「逃れの場」というものが設置されていて、大罪を犯した人が生涯そこで暮らす その方が生き易いのかも知れないとも思ったことがあります 生きることを前提にすることで死刑制度に反対するというのはとても矛盾しているかも知れませんが、何のために生まれたのか なぜ罪を犯したのか きちんと向き合える時間と余裕を日本社会が持てるようになつたら良いなあと思います 原因がどこにあるのか 貧しい? 差別? 強欲? 愚かさから解放されるのは死刑しかないわけではない 人間の尊厳を大切にするのなら死刑制度にも踏み込んで良

いのではと思います
人が人を殺してはいけない。罪を犯した人は生ある間改心に励むべき。
袴田事件のような冤罪があったり、山上被告の裁判を未だに行わないなど裁判所の判断は絶対正しいとは言えない。また、死刑による犯罪抑止効果は疑わしい。
死ぬまで後悔する程の苦しみを与えたい 亡くなった人の苦しみを味わってほしい
死刑は犯罪者の 罪を軽くすることである、死刑にかわる終身刑をもうけるべきだ。
誤審の可能性を 0 にできないから 死刑も殺人だから
冤罪が存在する限り、絶対に死刑制度は無くさなくてはならない。極悪犯罪者は生ある限り、生きて償つてもらいます
如何なる理由を以てしても、人が人を殺す事は認められない。戦争も死刑も。
刑事裁判の有罪率が極端に高い日本では、冤罪があることが否定できない。死刑は執行されると裁判のやり直しさえも意味をなくすので死刑は廃止するべきだ。
死刑制度があっても凶悪犯罪はなくならない。死刑をなくせば冤罪で死刑になるケースはゼロになるから、そちらの方がメリットが大きい。
刑罰といえど死刑は殺人であり 人間が判断できることを超えている
死刑の存在が犯罪を抑止しているという客観的根拠は乏しく、その一方で、冤罪の可能性や死刑を執行する者の負担の問題など、問題点は顕在化していることから。死刑の廃止に伴い、いわゆる終身刑に相当する量刑は導入すべき
刑罰や刑期が有る理由は、犯罪を犯した者の更生と犯罪理由や原因の解明であるべきだと私は考えます。私は仏教の教えを学ぶ者であり、人命を奪って問題を解決する方法に強く反対します。
冤罪が多すぎる。死刑の厳罰で犯罪が減るとは思えないから
「人を殺してはいけない、から、殺す」という論理に納得がいかない。結局は「人を殺しても良い」と言っていることになる。国家殺人は危険
裁判で事実を究明することには限界があり、えん罪が避けられない。人命を奪う処罰では誰も救われない。
昔から人間が人間を裁くのに、”死刑”をしても良いのか？と疑問に思っていました。昔の王様のように観衆の前で死刑の公開をするのは、民衆の憂さ晴らし的な目的もあったのでしょうか、もう時代が違います。もし冤罪の人が死刑になつたら？ それなくとも再審に時間がかから過ぎているのに、再審の前に死刑になつてしまつたら？ 取り返しはできません。遺族側からすれば、悔しい気持ちが強いでしょうが、その気持ちを死刑にすり替えても果たして悔しい気持ちはなくなりますか？私は無理だと思います。
冤罪で死刑にされた人、また最近では袴田事件のように家族が最後まで諦めることなく戦い無罪を勝ち取ったという事例もあるように途中で諦めてしまつたら何もしてない人が死刑になつてしまう！そんな事があつてはならないと思う。無念な思いで処刑された人も沢山いるのでは！
冤罪がゼロであることが完全に保証されないかぎり死刑はあるべきではない。
私は、アムネスティー 横浜グループで、死刑制度に関する公開討論会などを開いてきました。チラシ、新聞広告、関係団体への声かけなどして、何とか 30 人程度来てくれました。賛成・反対それぞれの立場の方が発言してくれました。討論会以前と討論会後のアンケートによると、意見が変わらないと言う人がほとんどでした。しかし、ほとんどの方が、討論会を開いてくれて良かったと答えてくれました。つまり、この問題に関する討論、(市民レベルも含めて国会など)国民レベルで議論を深めていく必要があると感じます。
ひとの命の長さと重みを、ひとが決めることが果たして妥当あるいは可能なのか。人間は間違えるものなのに。

死刑は国家による殺人です。これまでの裁判で冤罪は多数あり、これからも誤審は起こり得ます。

如何なる形であっても、国が人の命を奪う権力を持つことには反対である。冤罪のみならず、更生不可能性を証明することも不可能である。そして、感情論でも、コスト論でもなく、倫理的な次元で議論されるべき事柄であると考える。

死刑は執行されたら取り返しがつかない。最近相次ぐ再審無罪の実態を見れば、その重さに匹敵する至宝が存在するとは思えない

凶悪な犯罪を犯しても、人が人の命をとり上げるのは違うと思います。その人の命をまつとうして、一生罪を償つてほしい

罪を犯した人を罰という形で命をなくしても今後発生する犯罪には関係なく、その他の罰によって代替できるのにわざわざ残酷な死刑を維持する必要はなく、なくすべきだと思うから。

政治的な死刑をなくす、冤罪、オームの麻原は明らかに政治的死刑です。人間として死刑は反対です。

司法で最も重い刑が殺人は最大限の暴力

国家であってもいかなる者の生命も奪ってはならないと考えるから。

冤罪がなくもないこの国で、もしも死刑執行されたら…(袴田さんのような例 ゾッとします。

死刑は国家による殺人だと思う。殺人に罪悪感の無いサイコパスの場合には 終身刑にするのがいいと思う。裁判員制度による死刑判決はやはりトラウマの原因になるだろう。殺人者に人権はあるのか…は永遠の問い合わせだと思うが、警察の威信等で冤罪が起らないように、マスコミもネットも落ち着いて対応して欲しいものです。

・冤罪の可能性がある ・いかなる理由があっても人が人の命を奪うことを肯定できない

死刑制度を問題にする際、犯罪者、被害者や遺族については語られるが、死刑執行に携わる側への言及が少ないと感じる。執行を決めて飲み会に繰り出せる法務大臣がいても、執行して飲み会に行ける人間はいるだろうか。自衛隊員に賭命義務というものがあると聞いたが、人を殺める仕事が戦争の他にあるなんて、そんな仕事で給料をもらうなんて、絶対嫌だし、そんな仕事を課す公権力も許せない。

現在のやり方自体も問題ある 犯罪抑止になっているのか疑問 夷罪事件 自暴自棄になり死刑を求める事件を起こす

恣意的な証拠で冤罪だったのに死刑執行がなされてしまった場合、だれが責任を取るのか。真犯人はどうするのか。

近代国家らしからぬ野蛮な行為だから。人間に他の人間を殺す権利はないと思っているから。仮釈放も恩赦もない終身刑にして、生涯をかけて被害者側への損害賠償の為に奉仕労働させるべき。

「人は間違える」ことから、諸外国のように再審制度等の救済が無意味になる死刑制度は廃止が妥当。

人の命は尊いものだと信じています。一度失われたらそれで終わりです。その尊い命を社会が奪えてしまう仕組みに疑問を感じています。死刑に至るような犯罪を犯した人は、なぜそうなったのか。ある意味、なんらかの被害者でもある気がします。犯罪者が更生できないという考え方もありますが、あくまで他の人間が決めつけているものもあります。凶悪な犯罪者の終身刑を解くのは慎重になるべきですが、刑のあり方を見直すべきではと思います。例えば凶悪な犯罪者は閉じ込めておくだけではなく、苦痛を味合わせ、例えば、むち打ち刑みたいなものも検討してもいいかと思っています

すでに死刑執行してしまった飯塚事件のことを考えると、死刑制度は恐ろしいなあと思う。死後再審は認められることがあるけれども、死刑執行後の再審は国は絶対認めないでしょうね。三権分立の国なのに。100の犯罪を見逃しても、1個の冤罪死刑も作ってはならない。光市事件の時(もうずいぶん昔ですね)死刑を求める被害者遺族の青年の激しい復讐感情に、世間が共感して死刑を求める図にゾッとしました(青年に同情はしました、で

もそれとこれとは別です)。被害者感情を使って、死刑制度を擁護するのは「公に対する哲学」が足りないと思います。
死刑の次の量刑が無期懲役というのが軽すぎる。終身刑を設けるべき。
国家でも命を奪うことは許されないから。
死刑制度廃止には賛成ですが、凶悪犯罪に対するその他の刑がぬるすぎるので、死刑以外の刑罰の厳罰化を望む立場です。
死刑は執行すれば取り返しがつかない。この点で裁判には冤罪の可能性が廃止できないので死刑制度廃止に賛成します。
被害者家族の思いも考えないといけないが、やり方を含めて人道的ではない。また、目的にもあるような犯罪抑止にはなっていない 傾った考えかもしれないが、自民党の素人大臣に最終のサインをされて執行されるのも、問題。
受刑者には被害者・遺族に対し被害弁償させ、生涯罪を償わせるべき。
人を殺してはならない
人が人を殺めること自体に反対。冤罪の場合、取り返しがつかない。
袴田さんの事例を見るだけでも明らかだと思います。
終身刑とし労働で得た賃金を遺族に支払い続ける等、死ぬまで罪の償いをするべき。
冤罪の可能性がゼロにはならないから。死刑を認めれば、それがどんな理由であれ、人が人を殺すことを認めることになるから。
自死以外の選択肢を与えていため。
えん罪事件が続くように検察や司法制度のありかたにも疑問があるため
そもそも、国家が人を殺める権力を持つこと自体の理由がわからない。
終身刑やそれに準ずる刑期で代替が可能。
死刑が法務大臣の執行命令を得て行われているが、大臣の任命が適正といえない。検察庁も中立公正のか疑問に思える。
国が人を殺してはいけないと思うから。ただし、死刑にかわる十分な刑罰をしっかり決めてから廃止すべきだと思う。
意見にもありました、罪深い人間が人間を罰する時に必ずしも、正しい判断が出来ると思わない。
人間誰しも完全でなく、冤罪があるから。
国による殺人だと思うから
執行する人のことを考えて。
命がある限り、罪を犯した人にも、社会貢献しながら生きてほしい
犯罪を犯す人がいる状況を社会が省みる必要があると考え、その人を死刑にしておしまいでは、いけないと考えるから。
国家による殺人に反対 夷罪の不安、過去多数の案件あり。殺人の抑制には必ずしもならないと思う。
誤審による人権侵害を防ぐため
人間が人間を裁くことへの不安があります。一生涯を通して罪を償い、被害者家族へ詫びができるまでの 人間教育ができると最善だと思います。
誤審が絶対にないと言い切れないため

現状の司法体制では、不適切な捜査や取り調べ、または裁判所の証拠確認能力の不足などに起因した誤審の可能性を完全に排除できないので、死刑制度に反対する。しかし、犯罪抑止という観点から、死刑を廃止した場合は、終身刑を導入すべきであろう。

1人1人が幸せでいる事を追求した先に 罰する事で行為を制限しないといけない 世界が終わると良いと思うからです。

人権を重んじる国になるため

冤罪防止、抑止力にはならない、余程の黒でも終身刑を作った方が良いと思う

いかなる理由であれ、人が人を殺害することがあってはならない。

人が人をどんな形にしろ、殺すことは許されない。

免罪の可能性を排除できない以上、後戻りができない死刑には反対。

挙がっていた賛成意見の他に、昨今では死にたいからと凶悪犯罪を引き起こす者もおり、犯罪抑止効果どころか助長している部分もある。

冤罪がありうる。

命を奪う事は、誰にも出来ない

凶悪犯罪の抑止力にはならないと思う。冤罪もあるから。

1, 人は誰しも間違える(冤罪)2, 法律で殺人は罪だと決めている以上、司法も殺す権利を持つべきではない。
3, 被害者のケアを手厚くしつつ、同時に加害者が増えないような社会を作っていく方が良い(社会福祉の充実など)

国または人が人を殺すことが死刑であって それはやってはいけないことだと思うから

オウム真理教のテロは、何も解決していないのにほとんどの関係者が死刑になったため有耶無耶で終わったような気がします。時間が経つとわかることがあると思います。また、政府の思惑で死刑が執行されるので反対します。

死刑が執行された飯塚事件には実は真犯人が高い確率でいるんだと、言われています。国家が殺人という間違いを犯したのかもしれません、本当に恐ろしいことです。また、オウム真理教をめぐっては多くの信者が死刑執行されたことで、オウムを巡る信じがたい事件の数々の解明が、実はなされなずに終了とされてしまった、と感じました。死刑という刑法があることで、本邦の悪い癖(=物事をうやむやにして流し去ってしまうとする)も、露になりがちになるのではないでしょうか。それからまた被害者側の処罰感情についてですが。想像になってしまふのですが……被害者の方々は、実は死刑によっても、事件の区切りは、付けられるものではないのではないか。被害者の方々には現在よりもさらに寄り添った対応が必要なはずだと思いますが、それは死刑という刑法についてのみ考えることではないと思えます。

死刑が抑止力になっているとは思わない。死を覚悟して殺人を実行する人もいる。

誰にでもやり直しができる社会であってほしい。裁判結果に間違いがある事もあるが、そうなった時に取り返しができない。

生きて、生涯をかけて罪を償うべきと考えます。

冤罪があるかも。終身で罪を償うべきだ。犯罪の抑止力にはなっていない。

冤罪が生まれる可能性が否定できない以上、廃止するしかない。

やはり冤罪が恐ろしい

どんな罪深いことをしても、人の手で人を殺すことは絶対反対。

権力に人の命をゆだねるべきではない。
犯罪の抑止力にはならない。国家権力が命を奪うのとに反対
とても難しい問題だと思うが、袴田事件等をみても、完璧ではない人間が人間の命を公的にでも奪うことは恐ろしい
遺族の気持ちという点においては、今の制度で遺族の気持ちは晴れるのだろうか？死刑執行はブラックボックス、遺族が立ち会えるわけでも、何月何日に執行しますと知ることもなく、執行後にニュースになるだけ。もしかしたら、世間に権威を示すためとか恐怖を与えるためとか何かしらの目的があって、政府の都合で”国家の名のもとに合法的に行える殺人”が執行されているかもしれない。遺族の死刑執行を遺族が行えるという刑にした方がまだ遺族の気持ちが晴れるのでは？人間は間違える。冤罪の恐れをゼロにすることはできない。検察による数々の冤罪が明らかになっている。証拠捏造しているものまであった。飯塚事件は死刑執行後に新たな目撃証言がでて冤罪の可能性が高い。取り返しのつかない間違いが起きている。取り返しのつかない間違いが起こる可能性のある死刑制度は存続させるべきではない。
過去の裁判例からも冤罪である可能性がある場合も現実には多い。しかし現行の判例ではアメリカのような終身刑がなく、重罪にもかかわらず早期に出所する場合もあって、遺族や世間の意識に沿わないという一面もある。裁判の長さや検察が信頼できない機関であることを含めて日本の死刑制度は短絡的すぎると言わざるを得ない。
権力が暴走した時に死刑制度があると、濫用される可能性がある。現在のロシアでは死刑が廃止されているために、一応は死刑になる国民はない。死刑廃止には、権力の暴走を抑える効果があると言える。
人を襲ってしまった熊を射殺することにすら違和感を感じている 例え罪を犯しても命の重さは皆、同じだと生きて償えばよい
終身刑の制定とセットであれば、死刑制度の廃止に賛成です。
死刑は国家という大きな集合体による殺人だけれども、死刑の判決を下すのは裁判官、執行を命令するのは法務大臣、執行するのは刑務官というように実際に関わるのは各々の個人。こんな重い役目を負わせるのは酷だと思います。
死んでしまったらそれで終わり。重罪人は命で償うのではなく、一生を反省にあてて償うべき。
冤罪のリスクが避けきれない
まず、やはり人は人の命を奪ってはならないということ。冤罪であった場合は取り返しがつかない。また、近頃「死刑にしてほしかった」と言って凶悪犯罪を行う者もいることから、犯罪の抑止効果どころか逆に凶悪犯罪を促しているのではとすら思われる。
捜査機関による不当な取り調べや、人質司法と言われる現状がある限りは反対です。冤罪の温床となるおそれのある制度はすべて改めるべきだと考えます。
冤罪の場合があるから
死刑制度は公務員による残虐な刑罰を禁じている憲法 36 条に違反していると思う。袴田巖さんの例を挙げるまでもなく、冤罪による極刑は一例たりともあってはならないし、このような残虐な刑罰に関わることになる公務員の方の精神的負担も考慮すべきであることも考えると、死刑制度は時代にもそぐわない。
国家が人を殺すことを良しとしてしまうことへの抵抗感から。死刑とせずに、無期懲役や、隔離のような形で罰することはできないのかも検討すべきだと思う。
国家権力による冤罪や過ちが覆せる制度が限りなくない現状であれば、賛成となります。ただその逆の状態になった場合は死刑制度に賛成かといえば、悩むことと思います。

冤罪を引き起こす可能性もあるので
諸々の問題に対しては取り組むべきだが、死刑制度を廃止する事には反対する。
誤審という人権侵害は絶対避けなければならないから
ずっと被害者やその遺族が望むなら死刑はあって良いと思っていました。ですが、死刑に犯罪の抑止力がないことや、冤罪事件、日本の刑事事件の容疑者の扱い、また、死刑の方法等を知るにつれ、死刑制度に反対に変わりました。逮捕時に弁護士も呼べないとか、拘留期間長過ぎとか、自白を偏重しそうとか日本の司法制度にはおかしな事が多く、このままではとても死刑を容認出来ません。
冤罪は取り返しのつかないことであるから。
誤認逮捕・証拠の隠蔽・捏造まで警察はやっている。冤罪が考えられる以上、死刑はダメ。
人が人を殺すことは許されないと思う。別の処罰を検討すべきではないか
裁判は人が人を裁くものであり、必ずしも正しいとは言えない。裁く側に絶対の信頼を置けないような社会情勢になった場合、冤罪事件が多発するだろう。冤罪による死刑は最大の人権侵害であり、それを防ぐためにも、死刑制度を廃止すべきである
やはり最近の袴田事件の再審決定後の検察の反応や、大河原製作所の事件の話を聞くと冤罪で死刑になった人が、その後その人が無罪の可能性が出てきた時に取り返しの付かない事になると考えるから。そして被害者や家族にとって死刑囚の死が必ずしもいい効果をもたらすとは思えないから。
大学で法律を学びました。その時から「死刑廃止論者」です。「人間は過ちを犯すもの」という認識と「犯罪者を懲らしめる」という「懲罰主義」が世界の趨勢ではなく「過ちを犯した者を矯正する」という「教育刑主義」に立つからです。後から過ちだと気づいても「死刑執行」してしまっていれば取返しがつきません。
死刑による犯罪の抑止力はあまり無いと聞く。また冤罪の可能性や、死刑により事件の真相が闇を葬られる可能性がある。もちろん被害者感情は軽視できないが、死刑を望まない被害者もいるだろう。加害者の改心を望む被害者もいるかもしれない。「死刑制度＝被害者感情に寄り添った制度」とは一概に言えない。
被害者側としては死をもって償ってほしいという気持ちもわからなくはないが、やはり冤罪の可能性も考えると死刑には賛成できない。また、死刑の裏では死刑執行人の精神的負担があることも考慮すべきだと思う。
冤罪の可能性が否定できない。人が人を裁くことの限界、また刑を執行部するのも人であること。
犯罪理由がなんであれ、究極の人権侵害であると考えるため。
冤罪の可能性を否定できないため。被害者家族にとって真の救いは、加害者が罪を自覚し心からの謝罪を行うときに限られるから。
冤罪の可能性、死刑になりたくて犯罪を犯す者が少なからずいる、究極的には人が手を下して行う殺人のこと
死刑を容認するということは、人が人を殺しても良い、ということになるから。
例え国家でも殺人はダメ。冤罪問題。
国が人の死を決めるのは、危険。冤罪であった場合、取り返しがつかない。
人が人を裁く事(死刑に限る)はできない。なぜなら、国の権限で人を殺める事は結局、殺人と同じ事なので。

反対

重大な凶悪犯罪に対しては死刑もやむを得ないと思うから。
殺人には死をもって償うべきだと思うから。ただし本人が認めていない場合は冤罪の可能性もあるので慎重に審理する必要がある。
犯罪の抑止力として必要。咎人を税金で生かす余裕は無い。
凶悪な事件で人の命を奪ったなら、命で償う
この議論は、ある一定レベルの地位の人たちが自分のアイデンティティ表明に使われがちで、死刑宣告されても、本当は冤罪なのを知っているので 大臣から大臣へ移る際に申し送りがある。なので、死刑にしても世間から咎められない人だけ死刑にするってのが、気にいらない
廃止する理由が不十分なので消極的反対
被害者や遺族に償うべきである。
色々な考えを議論し、国民投票を重ねて決めるべきかと思う。現在の日本の政治や国力の弱さを鑑みて、今の段階では反対です。
終身刑導入並びに刑罰累進制を同時に導入し、「死刑」自体を“最後の切り札”的存在とする。
死刑自体が抑止力にもなる
冤罪が絶対に起きない仕組みが構築されるまでは、死刑制度を停止し、冤罪が絶対に起きない仕組みが構築されたら、廃止するかしないかを議論するべき
誤審の問題は残るが犯罪の凶悪化が増している現状では死刑制度は残すべきと考える
被害者の方々の思い
死刑制度が凶悪犯罪の抑止力になると思う。
議論の余地が無い
死刑制度には強く賛成している。よって、廃止には反対である。日本と言う国家において死刑制度は1つの文化であると考えている。島国として秩序を守る1つの施策として、人道に反した行いを死を持って償うのは何百年と続いている文化である。私はこれが残忍な文化とは感じない。法のものに正しく機能した方式であり、他国のように射殺して終了としているだけ人道的かつ法的に優秀であると感じている。
被害者の事を考えると死刑制度はあった方が良いと思う。
残忍な犯罪者(絶対的に犯罪者であることが誤りではないという前提)を生かしておく理由は見当たらない。
加害者に寄り添って頂きたい
犯罪の質が変わり凶悪化してる。様々が追いかず、そぐわない。罰則が軽過ぎる。厳罰化への修正こそ必要。
死刑になりたくて犯罪を起こす人が存在するので、アメリカのように刑期を何百年とすることで自分の犯した罪の重さを実感してもらう一方、死刑にする場合は自分の犯した犯罪と同等の方法で執行するべき。
死刑を必要とする罪もあると思うからです。
命を奪ったなら命で償うべきです！
生きていても害しかない人間は生かす意味がない。被害者の心情を考えれば反対だ
凶悪犯罪抑止および被害者遺族等の感情への配慮から死刑制度は残すべきと考える。同時に、取調べの可視化、弁護側による警察／検察証拠物件へのアクセス等、冤罪が生まれいような仕組みを強化する。また、再審請求

求制度の充実をはかるべき。
死刑が問題なのではなく、有名無実の三権分立や、国家権力警察検察裁判所などがクズなのだと思う。
罪人は更生などしないから
命を失つたら、命で償うべきである。
死刑が無いからと弱い者を何人でも殺す狂人が出てくる。その者は警察に対しても敬意を払わず執行を妨害する。
被害者感情を考えると死刑制度はあったほうがいいと思う。
過去の凶悪事件を見て、廃止していたと想像すると「オウム真理教の事件」「幼女連続事件」等の犯人は、現在も生きている事になる。要するに何をしても己の命は守られる。と言う意味。
自分が凶悪な犯罪の被害者になったと想像すると加害者には死刑になって欲しいと思うから
冤罪は有ってはならないが、裁判員裁判の元で出された死刑判決は尊重されるべきだと思う。
無期懲役以上の罪を償うのであれば、いつ死ぬか分からぬという恐怖もプラスして味あわせた方が良い。
制度の運用には慎重ではあってほしいと思いますが「津久井やまゆり園事件」のようなとてもつらい事件があるので。
人間社会で生きる上での最低限の義務を果たせないものは死ぬべき。その重いルールが抑止力となる。被害者の心の尊厳を保つべき。
冤罪は警察・検察・裁判所の問題であり、こちらこそ改善すべきである。
罪には然るべき対応が必要なので賛成です。現在の司法では、人の気持ちが入ってしまい正確な判決が出来ていませんので、AIに判断させれるようにしていった方が良いでしょう。※ 司法の不正にも対応できるようになる。
制度を廃止するのではなく、そこに至る裁判や捜査を改善する必要があると思います。
何があっても更生出来ない人がいるから。
他人の命を奪った罪は自分の命で償うべき。冤罪を心配するのであれば犯行が明確なもののみに適用することとして死刑は残すべき。
どうしても被害者側の立場で考えてしまうので、たとえ一生懃の中だとしても寿命を全うさせるに値しない犯罪を犯した人物を生かしておきたくない。冒した罪による。確実に犯人だとわかっている場合にのみ発令するよう望む。冤罪になりかねない可能性がある件には死刑は望まない。
理不尽な理由により人の命を奪うような事をしたなら自分の命をもって償う必要があると思う。たとえ被害者が1人であろうとも。
極刑として、死刑はあって然るべきと考える
著しく残虐非道で、内心の自由の範囲を超越した破壊衝動は文明社会の中に放たれるにはあまりに他者への被害のリスクが高すぎるためです。
命をかけた厳罰は絶対に必要。被害者家族の心情を考えたら終身刑では足りない。
終身刑のような死刑に代わる制度が必要と考える
消極的ですが現行継続です。よりより更生や罪を償う方法が具体的に出てくると意見は変わると思います。
死刑がないと凶悪犯罪が増えると思う。特に今の日本では…モラル、倫理崩壊が進んでいるため。
いまをもって死をして償わなければいけない人間があり、それらに税金をもって生かし続ける(無期懲役など)ことはできない

犯罪の抑止力になるから。
死刑制度にはある程度の犯罪抑止効果があると思います
冤罪による死刑が生まれないように それは別の制度などを作ることで防ぐ努力はすべき。情状酌量の余地もない死刑判決を受けるような殺人を犯しておきながら 塀のなかだろうが 人権を尊重されながら衣食住が保障されて生きていることは遺族には耐え難いと思う。私がもし自分の大切な人を殺されて 犯人が生きているなんて 耐えられないので。被害者は未来も人権も命までも奪われているわけだから。
死刑廃止による、犯罪者心理のエスカレートに不安があるため。
現状の制度で違和感をもったことがないので
極刑は必要だから。
討論でもありました、絶対に冤罪では無い場合。討論を聞いて、大変迷いましたが、今までずっと迷いのなかった結論にしました。
凶悪犯罪の抑止力になり得る唯一の制度であるから。
判決が下る頻度や執行頻度を問わず、存在するだけで犯罪者にとっては抑止力となりうる制度であると思うため。
被害者家族の感情を思うと極刑も必要だと思う
仮釈放無しの終身刑を採用してほしい
凶悪犯が、死刑制度が無くなったら、数年の 我慢で大丈夫だと、思うかも知れません、それをそう思わなくする為に、死刑制度があった方が良いと思います
被害者側の心情を考えた時に、極刑は当然であるべき また、凶悪犯罪の抑止の為
冤罪は必ず起きることを前提とします。人や社会が人を殺す権利はないはず。
又やるよ
裁判官・検察官が下した死刑判決が誤審であった場合に、裁判官・検察官が死刑になる制度があるなら死刑制度を認めましょう。誤審には責任を持ってもらいましょう。
昔ならともかく現在では捜査能力も向上しており冤罪になる可能性は極めて低いと思われるから。
更生不可能かつ社会に危険を及ぼす可能性が 廃除出来ない者を解決する唯一無二の民主的 方法だから。
被害者の被害感情、応報的側面、社会秩序及び治安維持のために必要である。冤罪の問題はあるが、冤罪の可能性がある事案については執行しない運用を厳格にすればよい。
現在のところ、死刑制度が犯罪の抑止力になっている面があると感じているから。本当はこんな野蛮な制度は廃止したいが、他に犯罪抑止力になる方法が見当たらないので仕方ない。
犯罪の抑止になるということよりも、殺人等の重罪を犯したことに間違いがなければ、極刑は当たり前だと思う！
再犯率の高い凶悪犯を我々の社会から完全に隔離する手段としての死刑制度を支持します。釈放のない終身刑あるいは懲役 200 年とかいう有期刑を認めるか、あるいは遠島などの我々の社会から完全に隔離する制度を設けるのであれば死刑制度の廃止にやぶさかではありません。
冤罪と死刑廃止は同時に語れられないと思う。無期懲役では凶悪犯罪抑止につながらない。
最高刑は死で償うべき。
凶悪犯罪者への抑止力になるし死刑でしか償えないほど酷い犯罪がある限り必要だと思う
冤罪ではないことが明らかで、凶悪な犯罪者である場合は、税金で生かしておく理由がない。無期懲役の場合、

恩赦で出てこられたら堪らない。
死刑よりも無期懲役の方が苦しいと youtube チャンネルで答えてた方の動画をみました。ただ、被害者にとっては加害者の命を何回消しても足りないと思います。好んで刑務所や拘置所に入りたがる人も中には居ると思います。食事や寝床が確保されている生活ですから。死刑制度があるからこそ、抑止が出来ている一面があるかもしれませんと思っています。
死刑と犯罪抑制との明確な相関性がないとの論稿もあるようだが、被害者感情を勘案すると「廃止」について諸手を挙げて賛同することはできない。ただし、その一方で「冤罪」がでないよう、現行の捜査・立件・裁判の在り方について考えることが必要だと考える。
凶悪犯罪が減れば賛成してもよい。
人間を更生させるのには限界がある。
廃止すると犯罪が多くなる、
被害者感情を考えるのであれば致し方ないと思う。また懲役後の再犯率も高いことからも、現在の懲役では軽すぎるとと思う。せめて被害者の補償が出来るだけの労務が完了するまでは刑務所で労務してほしい。
近年、二十人、三十人を殺すアホが多すぎ、その様な者に人類愛を説明しても無駄。抑止力が必要。
生きている価値のない有害な人もあるから。人間の性格は変えられないと思うし更生は難しい。
他人の人権を奪った人間の人権を守る必要はないと思うので。ただし、死刑の判決は今以上に慎重に下す事を望む。個人としては、無期懲役が死刑より重い判決だと思うので、刑に服して社会貢献となる作業を続けてもらいたい。
やはり、被害者の立場で考えると、死刑は必要 でも冤罪もあるので、合わせて 最近の判事や検察など信用できない人がいます。裁判制度の改革も必要
凶悪事件の抑止力として必要。
交通事故で親を殺されました。感情的に「死」をもって償ってほしいと思っています。古い話ではあります。
被害者及びその家族の思い
被害者心情が大切
廃止すれば、命の尊さを軽視する輩がかえって増える。他人の命を奪う輩を安易に生かしておく事こそ愚策そのもの。
被害者の感情を考えると。もっと長い刑期や一生出れない重い刑があるなら考えるが
人の命を奪うような犯罪を抑止できると思う。死刑執行するのは慎重に
死をもって償わさせなければならない犯罪はある。
終身刑など死刑に変わる制度が出来れば廃止に賛成する
人を殺したら自分の死をもって償うべきであると思う。そんな人を生涯税金で生かしておくなんて事は絶対嫌です。
死刑が犯罪の抑制になることもある。
凶悪犯罪が多発する状況で死刑に代替できる罰則が考えられない。
刑事裁判の改善を先にすべき。
死刑囚を死ぬまで税金で手厚く養うのは反対 死刑制度廃止に賛成の人たちで養ってあげてほしい
現状、被害者や遺族が死刑を望むということが大きいし、日本人の死生観が欧米とは異なると思います。死刑制度は確かに問題課題があるのも承知していますが、私自身、2018 年に起きた新潟女児殺害事件では死刑では

なく無期懲役になったことが納得できなくて、その時の自分の感情に驚いたし死刑は存続すべきと思ったのも事実です。
凶悪犯罪を起こし更生不能と判断されたなら命で償うべき
凶悪犯などに限定適用するような形にするなど、廃止までしなくていいと思う。まだまだ議論が必要。
誤認逮捕がある可能性はあるので、現行犯以外は禁止することに問題は無いが、京アニ事件のように間違える可能性が無い現行犯なら必要だと思う。
制度自体を廃止してしまうと再び復活させることが困難なため。
人間は殺す権利も殺される義務も持っていない。自分以外の者を殺めた者はどうすれば償えるのか？死刑を廃止するなら加罰性と莫大な罰金性を導入する
間違う恐れがあるから賛成という意見はわからない。「間違う」捜査・裁判のやり方を変える・改善するのが先であり、その上で「疑わしきは罰せず」の判決ではないか？
死ぬことにも意味があると思うから。犯罪の抑止力のため。
被害者やその家族の心情を思えば、凶悪な犯罪に死刑を求刑できないのは、間違っていると考える。ただし、冤罪は防ぐべき。
被害者、被害者家族の感情を考えると凶悪犯罪には死刑をもって処罰するしかない。
被害者家族の心情を考えたら必要。自分が被害者側に立った場合にも同じ事が言える。逆に加害者側に立ってもやはり相手を死に至らしめた場合は同じ事を思う。いつも加害者には将来があるといわれるが、被害者はその将来を奪われたのだから擁護できない。また刑務所で罪を償うにしても税金が使われる。被害者側の心情からすると一生辯の中嫌い出て来て欲しくないと思うだろうが多額の税金を使って養う事も反対だし、そもそも場所にも限りがある。だからと言って軽犯罪者を早々に出所させられても困る。罪の深さを思い知らせるためにもまた犯罪抑制のためにも死刑制度は必要である。
死をもって償う
凶悪犯罪防止の為に有効
死刑制度がないと阻止できない人間もいる。
刑罰として必要だと思うから。海外ではどうこう言う人はいるが、捕まえる際に簡単に射殺する国も少なく無いというダブルスタンダードを理解してるのが疑問。
極刑は必要
犯罪防止にならない　被害者の家族の身の事を考えていない
理不尽に殺され、殺した方は法律に守られる事に納得出来ないから。
更生する気がない人は必ずいるし、その人の生きるために税金使うより少子化対策など優先すべきことがあると思う
幼い子供やなんの落ち度もない人を殺めた場合は、やはり命を奪われた家族や縁者の身になって考えれば同じ地球上でのうのうと息をして暮らしていると思うと堪え難い思いになると思う。司法がやらないのなら自分で…と思っています。
証拠も明らかで本人も加害を認めている重大犯罪については死刑を執行すべき。そうでないケース（和歌山毒カレー事件等）は執行を停止し、再審すべき。
死刑制度に犯罪の抑止力はないが、被害者心情を考えると、あえて廃止をする必要性を感じない。
死刑の代わりに厳密な終身刑（減刑がないもの）を定めたらいいと思います。

理由なく殺された人がいる場合、被害者は生き返ることも反論することもできない。加害者にだけ、更生のチャンスが与えられることに納得できない。
凶悪犯罪が増える。
犯罪の抑止力になる
私の感情です。
犯罪の抑止力としの死刑は必要と思います。
冤罪の可能性を排除できるように法律・制度を改めるという条件のもとに死刑制度は残しても良い。死刑のみが遺族の感情に添うというような犯罪内容が存在するから。
死を以て償わないといけないことはある。私刑を解禁するなら聞く耳を持つ。死刑廃止はそれくらいのレベルの暴論。
犯罪の抑止という観点から、罪と罰を鑑みた場合、同程度の比重は必要だろうと考えるから。死を持ってしか償えない罪がある。また、死を持って償わせられるという恐怖心が抑止になると考えます。ただ、凶悪犯罪は根絶不可能だという認識は必要だとも考えます。
凶悪事件発生の強力な抑止力になっている
死刑制度をもって、残虐な殺人事件を防げないという意見が多いが、人の死をもって事件を防ぐのではなく、償いの重大性をもっとを言うべき。
とかく加害者の人権について論じられるが、被害者遺族の立場って論ずるべき。死刑判決が出るということは、それだけの犯罪を犯したからであり、そんな犯罪者に人権などあるべきではないと思う。
重大犯罪者を我々の金で養う気はない。重大犯罪者は迅速に死刑で社会から排除してもらいたい。
更生できるレベルのものだけでは無い
死刑という刑罰は人間の本能により作られたものなので廃止は本能に反する 死刑廃止はキリスト教の価値観が反映されてるのでダメ。私は全ての宗教に価値を認めてない。廃止により遵法精神が弱くなるため
死刑に相当する罪を犯した者は、死をもって償うことは理にかなっていると思うから。
今の日本では、凶悪犯罪を犯した死刑囚に対して、決め細やかな更正支援が出来ないと思うから。
凶悪な犯罪が発生する以上、死刑制度は必要と思います。
凶悪な犯罪がより増えてしまう気がするから。
仮釈放無しの終身刑を導入するのならば賛成しても良い
被害者感情から必要だと思うし更生不可能な者もいる。そういう者達を税金で養い続けるのもおかしいと思ったから
凶悪犯罪者は、本当の無期懲役か、それが不可であれば死刑としないと国民に危険を及ぼす確率が非常に高いから。
死に値する犯罪者がいる限り死刑は廃止すべきではない。安倍晋三などはまさに死刑にすべき犯罪者である。
冤罪はなくならないから。死刑制度は世界基準から外れているから。
殺された被害者の家族の気持ちを考えると存続を希望するので。
たまに受刑者を報道するドキュメント番組があるが、本当に反省しているのか疑問に思う事がある。償いは、被害者の状況と同等以上であるべき。
極悪人、性癖は治らないので、犠牲者が増えると思う。
死刑によって犯罪が抑制されるとは思わない。また、冤罪があり得るので取り返しがつかない。

遺族の心情

多数の人を殺めた人間、自分の益を得る為に特定の人を意思を持って殺めた人間が死刑になるのだと思っています。自分はこのような人間は死を持って報いることが妥当に思われます。

自分の命を持って責任を全うすべき。

なにをやっても自分は殺されない

何事に於いても完璧はない、神など存在しない。人間社会そして日本国に生まれたので、犯罪を起こさない生活に勤しむべきと考えます。

反対するが、判断することが難しい。

遺族の気持ちを考えると自分の死をもって償う事は必要だと思う。もしそういう人が恩赦等で社会に出てきても同じ事を繰り返す。精神鑑定で死刑を逃れるのはおかしい、そういう病気は治らない。

今の現状が、刑期が犯罪のわりに短いと感じるので。

終身刑を取り入れることで少しばかり死刑に関する危惧が除外されるのでは

無期懲役でも 世の中に出でてくる場合もある。刑が積み重なって、100年 200年の刑期があれば良いが。日本では 現場で射殺ということもない。

命を失った人には自己の命で対応すべき。

凶悪犯には然るべき対応 但し、冤罪は許せない。きちんと調査を！ 政治家、官僚、上流国民と言わるれる人の過ちも区別無く調査を！

日本文化で育った人だけが犯罪者ではない、誰もが更生できるわけではない。むしろ、おらしい演技すらできるかもしれないのが他国の犯罪者である。 < 賛成側の主張に関する反論 > 1、「誤審よくない」 犯罪者の詐欺っぷりを裁判官を見極められかわからない。誤審もあるかもしれないが、逆に犯罪者が裁判で逃げ切る可能性もある。 今後日本の常識では判断できない犯罪者を無駄に終身刑にした為に、恩赦による開放の機会を残し、さらにこの犯罪者が他国で問題を起こした時に恨まれるくらいなら、きちんと区切りをつけたほうがよい。 2、「犯罪抑止に効果なし」 そもそも、犯罪者は刑罰が怖くて侵さないわけではない。犯罪が、できるからやるだけ。死刑は、こんな歯止めを知らない人が別の次元に行ってもらうための手法。抑止を越えた人への最終手段かと。 3、「まだ未熟だからおこがましい」 未熟ゆえに、更生できず、損失を回収できないなら、もう切り捨てるしかないのかも。 逆に、なんとしても更生できるのであれば、たしかに廃止してもよいだろうが、ここに辿り着くにはまだ先かと。 4、「世界の～56か国」 今後移民で、この56か国の人人が悪さしたときの為に残しておくべき。この56か国の入国を禁止できるなら廃止でもよいかも？ 5、「受刑者の償わせ」 被害者への償いができる人なら、裁判官が障害償わせる判決を出せばよいだけ。こんな罪の意識をもてない人の為に使う時間がもったいない。 6、「残酷な刑罰」 自暴自棄になった人に対して、本当に残酷なことなのか気になる。日本で育って他者を殺める程に追い詰められた人に、こっちの方が残酷な気がしなくもないが。 今後この国の文化を蔑ろにする人にまで、この国の法を適用する必要はない。 抑止力としては微妙だろうけど、この歳になると一瞬で終わるとい状況も助かる。 ぐだぐだと長引かされる事が増えた側の視点としては、現状のこの国で犯罪者を下手に生かしても逆に取り込まれて危険度が増すだけの気がする。 悪人を制御できるなんて夢物語は、物語の中だけの理想論でしかない。 移民が世界であふれる時代に、ぬくぬくと安全な視点での廃止論は危険すぎる。 皆が日本文化だけで育ったなら廃止もありだが、今後状況は変わる為に、この国の常識を越えた対策は残すべき。

何の落ち度もないのにもしも家族(愛する人が殺されたりすれば、同等のものをもってして償って欲しい。法で行ってもらえないなら自ら行うかもしれない。せめて法でなして欲しいと思う。よく、犯人が亡くなつても、殺され

た人は帰ってこないと言う意見があるが、犯人を許したとて殺された者は帰ってこない。ならば、同じく帰ってこない人になってもらうしかない。
罪を償うのが当たり前である。
被害者の遺族の事を考えるとやむをえない。また、絞首刑でなく薬等による死刑制度にした方が良いと思う?
非常に悩みましたが、反対(存続)を選びました。ただし、冤罪のなくすために、オウムのような非常に大規模な凶悪犯罪だけに適用するようにすべきと思う。通常の場合は、無期懲役で生きて償わせることをすべきと思う。
死刑に値する犯罪行為がある。
抑止力として必要。
賛成したいところですがこの問題は簡単に答えが出ないので 現状維持
証拠など、犯罪事実に争いのない場合まで終身刑で済ますのは、社会的な公平性を欠くと思います。確かに冤罪のリスクは残りますが、公平性を優先して死刑制度はあった方がよいと思います。
重罪に対する責任は取らせるべき
治安を維持するには死刑制度は現状致し方ないと思います。犯罪被害者の方からすると、犯罪者が死亡しても心が癒されることはないと思う。闇バイトや公共の金属を盗む、育てた農家の野菜を盗むなど、重罪にして欲しいと思うような事件が日々あります。日本の治安に不安を感じる今日この頃です。シンガポールのように、「公開100叩き」や、犯罪者が二度と罪を犯さないよう、死刑でなくとも自尊心を気づ付けられるような、罰も必要だと思います。しかしながら、犯罪者だとしても、人の命を誰かが奪うのは賛成できない。真に犯罪者が校正できる社会の仕組みが必要だと思います。
ほんまに罪犯した人はどうか死刑になってください。冤罪は許しません。
殺人など重い罪は、自らの命で償うべき。
死刑で遺族の無念が晴れるとか犯罪の抑制にはなると思いませんが 死刑制度が無くなったら、もっと悪い世の中になりそうです。
殺人犯は死をもって償うしか方法が無いから。死んだら人権が無くなるのか?殺した殺人犯のみに人権があるのか?一人殺したら死刑でいいと思う。
本サイトの死刑制度を廃止することに反対側の意見の全てに強く同意します。ただ、少しでも被告ではないと疑われる事例の場合のみ(冤罪の可能性)、死刑判決は慎重にあらゆる面から調査するべきだと思う。
反対の主張の 1.2.4 に同意。
死刑をもってしか許されないような凶悪犯罪があとをたたない
本人が再審を請求するなど異議を唱えている最中に執行するのは誤りだと思う。ただ、無期懲役の方がむしろ受刑者の神経を参らせると聞いたことがあり、死刑を廃止することが受刑者の人権保護になるとは必ずしも思えない。
まだ決めかねている。暫定判断として、現状のまとめる
無期懲役が最終刑となるため、明確な制度設計ができていないと考えてることが必要
死刑宣告を受ける被告人は殺人罪がほとんどである。その立場になったことがないので想像だが、遺族感情を考えると被告人に対して死刑でも足りないくらいの思いがあるのではないかと思う。しかし、刑を執行する刑務官の負担は議論されていかなければならないと考える。
死刑制度を廃止しても、凶悪な犯罪が減るとは思えない
・遺族の心情。・凶悪犯罪の抑止力になる。・死刑制度がないと、凶悪犯罪者増加のおそれがある。(刑務所であっても、一生食べられて医療も受けられるという邪悪な考えを持つ者が増える)

更正の余地のない凶悪犯を社会から隔離して一般人の安全を守ろうとした場合、無期懲役という手法は多くの税金を凶悪犯の生命保持のために浪費する非常に一般人にとって不利益の大きい手法になる。遺族の気持ちを考慮しても、その他一般人の利益を考慮しても、死刑が廃止されるというのは非常にデメリットが大きいと考える。死刑執行に際しては慎重な判断が必要とは思うが、冤罪による死刑執行の恐れよりも遙かに死刑廃止の不利益が大きいと感じるため、死刑廃止に反対する。

自分がもし被害者になつたら、のうのうと生き続ける犯人を許せない。冤罪は確かに恐ろしいですが、処罰感情の方が強いので死刑を廃止してほしくありません。

凶悪犯罪防止のため

刑罰の細分化をもって死刑制度は形骸的にもまだ残していたほうがいいのかな。ただえん罪で死刑になってしまうのだけはだめだよね

自分の身内がもし殺されたら、相手を死刑にしたいと思うのは当然だと思う。相手の命を奪っておいてそいつが生きていると思うと悔しいと遺族が思うから。もし死刑がなくなつたら凶悪犯罪が増えると思う

被害者感情を鑑みて反対します

犯罪抑止の為にも死刑(極刑)は必要 それ以外理由無し 犯罪者に人権等なしで良い 刑務所とはそういう所で良い

凶悪犯人を野放しにしたくない。

この問題は刑の大小の問題ではなく、裁判の精度、あり方の問題。現在のような冤罪続出の警察・裁判では、冤罪による死刑が多発するのは間違えないが、死刑を廃止しても、警察の捜査・裁判、冤罪が疑われる場合の対応が今のままなら、死刑を廃止したところで何も変わらない。

まずは、凶悪犯罪の犠牲者となった遺族の意見を確認したい。今回の議論では、1名の当事者のご意見しかなかったため、それが遺族を代表しているとは言えないと感じた。遺族たちの大多数が死刑の廃止を望むのであれば、これに賛成する意思はある。以前、少年犯罪であれば極刑を免れるということを念頭に未成年のうちに凶悪犯罪に手を染めるというような証言をした被告も複数したように記憶している。制度として残置しておいて、実際はほとんど運用されないという状態が現状では望ましいとも考えられる。

極凶悪犯に対する罰は必要。但し、判決には誤審の疑いの無い明確な証拠が必須と考えます。

死刑制度を廃止すると江戸時代の仇討が復活するので

冤罪防止。最高刑は終身刑で。

残虐な犯罪を起こし更生が期待できない人には相応の処罰が必要。被害者遺族への感情的な慰めにもなる。

極悪人 大罪人は自分のした事に責任を持つべき。制度無くしたら更に犯罪者は犯罪を軽く見て行う。

抑止力

被害者の家族を考えると死刑もあり！ 殺人事件や凶悪犯罪者に、更生が見込めない者には、死刑あり！

人を殺めた人間にかぎる。

今年は特に凶悪犯罪が多発し、毎日どこかで殺人事件が報じられている印象です。凶悪犯罪者をすべて死刑にすればよいということではなく、最悪死刑もあり得るということが、犯罪抑止力になると考えます。ただ無期懲役の人間が今後さらに増えていくでしょうし、そんな連中を死ぬまで国費で面倒見ることには抵抗があります。

自分が被害者、被害者家族ならもちろん反対です

被害者意識の観点とかよりも、殺人者は、更生することはできない。

どんなに悪質な罪を犯しても死刑にならないのはおかしい。加害者よりも被害者の感情に寄り添うべき(昔のかたき討ちも許されるべきだ)。

冤罪の可能性があるから
冤罪を考えた際にかなり迷いもあったが、故意に他人を死に追いやったとしたら自らの死をもってつぐなうことも必要だと感じる。ただし絞首刑みたいな非人道的な形ではなく方法は見直して欲しい。
死刑はんたる完全なる証拠が微妙な者は難しい所もあるが？ ほぼ完全に証拠や本人の自白や相当性がある場合は必要なものだと思う。ただ裁判官が世間一般的な考えを持っている人は少ないのでと思う。選挙の時の裁判官の任命のもほとんどの人は考えてないと思います。裁判官も一定の期間で交代制を考えてみてはとも思います。
やっぱり重罪は、死刑に、するべきだと思う。ただ、内容にもよる。そこは、しっかりと、裁判等でやって頂きたいです。
何か分けの分からぬ、最悪の犯罪が至極簡単に起こるこの傾向止力として必要と必要です。
強制的に他人の人生を終わらせた人間が、自らの人生は(法で)守られても良いのかという疑問があるから。
私が被害者の遺族だったら 殺してやると思う 日本での判決の刑が甘すぎる 死刑が出るのは稀に近い 凶悪事件を起こす犯罪者が 改心することは無いと思う
死刑制度の犯罪抑止力は大きい。冤罪を考えるなら警察制度、検察、裁判官任用制度の抜本的改正が問題なのでは。裁判官、検事をやめたら弁護士登録ができるのを廃止すべき。一定の役人の登録も含め。警察官は上級職を廃止すべき。一般警察官の広域的な人事異動をすべき。
警察検察権力による冤罪が存在する限り反対。死刑制度の代わりに終身刑制度への移行が可能である。ただ被害者的心情を考慮した場合(事件内容、判決内容による)単純に死刑制度反対と言い切るのは難しい。警察、検察の証拠全ての提出をした上で死刑制度反対である。
税金の無駄遣い
死刑制度自体の誤審を防止する取組を継続することを前提に、秩序保持の為の牽制機能として死刑制度存続すべしと判断しました
反対主張の②に同意
過去、えん罪等で人権を失い命まで失った方も沢山おられると思う。当人も含め家族の方々の気持ちはいかばかりかと思う。しかし、罪を憎んで人を憎まずではないけれど、国家による恩赦等は与えず、極悪非道な罪人でも終身刑で、自分が犯した罪を自分の命で償えばいいのではと思う。ただし、当人の社会性に対する更生は正しく判断して減刑もありうる所。
犯罪抑止の観点から、死刑制度は必要。
死刑判決については慎重に行うべきだとは思うが、凶悪かつ反省をしていない囚人も増えている中、制度自体を廃止してしまうと被害者と遺族はやりきれないと思うから。自分事になった場合、これについては最後は感情で動いてしまうのが人間だと思います。
冤罪の可能性や更正の可能性もあると思うが、私が遺族なら許せない。遺族の希望が、それなら廃止には反対
凶悪犯罪が 多くなつて被害者や遺族の気持ちを考えると 死刑の判決も必要
被害者の身内の心情を考えると…やむを得ないかと。
確かに、実際に袴田巖さんや免田栄さんの様な事例は明らかに『冤罪』は有ります。 しかしながら、本物の大量殺人犯を死刑にしない事は、被害者遺族の処罰感情等から見て如何な事かと思います。ただし、警察や検察による自白の強要や証拠改竄・裁判官の誤審は許される事では無く、検察審査会を参考に『裁判審査会』や『再審査会』と言った死刑判決を受けた被告人や死刑囚の名誉回復を図る為の国民による歯止めを設ける必要は有ります。

世の中には、死刑相当の犯罪がある。生きて罪を償うより、再犯して更なる被害者を産むような人は死刑もありだと思う もしくはアメリカのように人の寿命より長い刑期を採用してほしい

殺められた人の時間は戻らない。

人の命を奪った者は自分の命で償うのは当然の事。

死刑でもあり死刑でもない方式がありうる。賛成でも反対でもある選択肢がない。

犯罪抑止のため

被害者の人権を無視している

被害者からすれば、更生の予知のない悪質な犯罪を犯した者は命を持って償うのは当然です。冤罪を招かないよう警察、検察や裁判官の徹底的な捜査もそれに合わせて厳密に行っていただきたい。

遺族の心情、人を殺めた者の当然としての償いだと思います。

オウムの教祖、やまゆり園の犯人など死刑妥当の被告など死刑相当の罪の人がいるから。

冤罪事件で死刑判決を受けた場合どうするのかという問題はあるが、これまでの事例をみると捜査の段階で問題がみられ、まず警察の組織に問題があると思うので、見直すべきと思う。裁判の段階になんでも検察・被告の主張をよく検討し、判決に慎重になるべきと思う。

死刑はむしろ増量すべき

抑止力がなくなり、犯罪が増えそうで怖い。

少年法の厳罰化が先ではないか。また、被害者より犯罪者の人権が守られている気がしてならない。

人を殺す行為したら自分も、責任を取るのが当たり前

死刑制度は犯罪の抑止力。そして人の命を奪うことの罪の重さについて考えてもらいたい。

絶対反対です。凶悪犯罪をしたら死んで償わないといけません。昨今 増加している闇バイトやリンチ殺人 虐め殺人 全て 即死刑でいいと思います。

確かに誤審による死刑はあってはならないと考えるが、もし家族や大切な人が例え無差別殺人など理由なく殺された場合、死をもって償うこと以外ないと感じるため。

人が人を殺すという場面だけを考えると残酷だと思いますが、社会秩序を安定させるための一つの方法として残しておくべきだと思います。

それは、犯罪の抑止力として、社会正義を守るための重要な手段であるからである。 第一に、死刑は重大犯罪の抑止力として機能します。殺人やテロ行為、国家反逆などの悪質な犯罪を企てる者に対して、死刑という究極の刑が課される可能性があることは、犯罪抑止の堅実な要素です。緩和制度が存在することで、犯罪者は行為に及ぶ前に黙する可能性が懸念されます。これにより、潜在的な被害者を守る効果が期待されます。 第二に、死刑は極悪非道な犯罪に対する正当な報いであると考えられます。社会はその秩序と安全を維持するために、犯罪者に対する処罰を行う権利と責任を持っています。他人の命を奪った犯罪者が、自主的な行為によって最も厳しい刑罰を受けることは、被害者の感情に配慮し、社会全体の正義感を満たすものです。 第三に、死刑は再犯のリスクを完全に排除する唯一の方法です。知覚犯罪者を終身刑にしたとしても、脱獄や服役中の再犯の可能性がゼロになるわけではありません。このリスクを完全に消し去り、被害を防ぎます。ただし、冤罪のリスクが伴うという議論も存在します。ただし、科学技術の進歩や司法制度の権利化により、誤判の可能性は大幅に低下しています。全面的に廃止するのは過剰な対応と言えます。 以上の理由から、死刑制度は社会にとって必要なものであり、廃止すべきではない。

死刑制度がなければ被害者家族が報われない可能性があるし、確実に抑止力になっている。

死刑が無くなると犯罪の抑止力が無くなる
悪人が蔓延る
抑止力は証明されてなくても、死刑のある国の人々が日本の刑が軽いから日本で犯罪を犯すなどの例もよく聞く事から、抑止力はあると思います。経済的コストの面でも賛成です。異常犯罪者などは罪悪感を持つ様になることも少ないと私は思います。執行しなくとも、いつ執行されるかという恐怖の中で過ごすことが一番の罰のような気がします。冤罪の問題は、捜査や裁判関係者の捏造や違法捜査への罰をもっと重くすることなど考えるべきではないでしょうか。死刑をなくしたら、あまりにも酷い犯罪を犯された家族の復讐も増えそうな気がします。動物のような弱肉強食の世界にならないよう、法治国家としての機能を維持するためにも制度として残しておくべきではないかと思います。
誰にでも人権は有ると思いますが、中には身勝手な理由で罪の意識を持てない人や犯罪に巻き込まれた被害者の方に対するケア等今迄解決出来ていない問題をそのままにして廃止するのは如何なものかと思う。対策もセットで有るべきではないでしょうか。
犯罪の抑止に、一定の効果はあると思う。
廃止すると凶悪犯罪の抑止にならない。永山基準もやめてほしい。これのせいで沢山の犯罪者が有期刑になっている。
人を殺しておいて自分だけ生きるのは許されない。遺族の心情からも必要であり、社会的にも必要だと考える。
死刑ではなく、生きて自分の犯した罪と向き合っていって欲しい。
奪われた命は戻らない、他者の命を奪うものが生きていても新たな命が奪われるだけだから 反省するような人は最初から死刑を求められるような罪は犯さない
冤罪はあってはならないが、その疑いがなく尚且つ他に償いようがない犯罪の場合はやむを得ないと思う。
極悪人を死刑に処すのは当然で、議論の余地はありません。
廃止にすると確実に死刑に値した罪を与えるのに、終身刑や考えられない年月の量刑になり、余分な税金が使われるから。
加害者より遺族の心情を優先されるべきと考えるため。ただし、厳格な運用を希望します。
短く説明するのはとても難しいが、そもそも刑罰というのは犯罪者を再教育し人格の陶冶を得て、また社会生活を送るにおいて一般の人々にとって脅威とならないこと(すなわち社会防衛)のためにあるものである。(決して国家権力にかたき討ちをさせるためのものではない。)しかしながらこの世にはこのような教育成果が望めない者が一定数存在する事実がある。この種の特に凶暴な者すらをも一般人の暮らす社会から排除する責めを国家権力が果たさないとするならばその存在意義は大きく損なわれることとなろう。またその種の者を「人道的に」保護・隔離するとなれば畢竟モラルハザードとなろう。
正直、どちらとも言えない。人の命を奪うのが人で、あっていいのか?しかし、誰かの命を奪った人間に残りの人生を与えたくはない。夫は刑務官。その立場でも複雑です
犯罪抑止 むしろ死刑判決を増やすべき
殺人犯は死をもってのみ償うことができる
「疑わしきは罰せず」を確実にしたうえで、死刑制度はその極悪非道な重罪を犯したことが確実な場合のみ科しても良いと思っています。林マスミ死刑囚のように、無実の可能性がある者には、死刑は求刑しない。絶対にその犯人が極悪非道な犯行を行った事実がない限り死刑求刑は出来ない制度も併せてあった方が良いと思います。
私は死刑制度の廃止論者の意見には十分な理があると考えている。しかし、同時に、死刑が有する凶悪犯罪の

防止効果にも期待している。なお、わが国警察権力の問題性、誤認捜査の問題性、検察権力の恣意性、わが国司法の独立性の欠如など、これらの問題にも併せて取り組む必要がある。

とても悩みます。ご本人、遺族の方の事を思うと死刑でも済まないと思われる方もいらっしゃると思います。自分がその立場になったとき、死刑以外の選択ができる自信がないです。でも、同じ人間が殺めていいとも思わない。死刑があることで殺人の抑止力になっているのか？やはり、同時に、なぜ殺人が起こるのか？なぜそこまでの思いになるのか？根本的なところから取り組まないといけないと思います。

大反対、冤罪は許されないが 交通事故でも死刑になつてもいいくらい、二人以上が死刑から一人でも死刑はあり得るくらいにしないと、気狂いがこれだけ増えると 抑止及ために必要、

犯罪が凶悪化してきているため。

これだけ悪質な犯罪が増えていく世の中 死刑がなくなれば何でも大丈夫と思う輩が増えていくので

被害者の親族の心情を考慮し

罪の重さと再犯の防止の観点からも死刑制度は存続すべきと考えます。冤罪の可能性は0ではないからというのは悪魔の証明で廃止する理由にはならない。例えば殺人など死刑になる犯罪をおかしたことによる刑罰は相當に重いものでなければならない。他国のように終身刑として国費により刑務所で養うのは無駄です。

討論会では、「反省」という言葉がでてきましたが、人の内面を知ることはできません。また、私は無信心なので、判断を委ねる神も持ちません。謝罪や補償があり、ご遺族から刑の軽減を許されたとしても、社会としては脅威に変わりないと思います。ただ、考える機会をいただき、感謝いたします。

私の家族が何者かに殺害されたら犯人が生きていることに納得できない 大事な大好きな家族の命を奪われたのに犯人が生きていることに怒りをおぼえる 目には目を歯には歯を…ではないが 生命には生命をもって償つて貰いたい

一定の制約は必要と思われる

凶悪犯罪への対処として現行犯での即時射殺が許されるのならば死刑廃止でも良いと思う

賛成、反対の判断ができません じぶんの身近な人が被害にあつたら死刑にして欲しいと思うはず、でも冤罪で死刑になつてしまつては取り返しがつかないと思う気持ちもあるから

犯罪抑止になっていると思うから

もし、愛する人の命を奪われたら、きっと許すことはできないし、加害者が生きていると思うだけで苦しいと思います。死刑が執行されたところで愛する人がかえってくる訳ではないですが、遺族の苦しみが少しでも和らぐのであれば、死をもって償うのもありかと思います

被害者や遺族の心情並びに人権を尊重すべきであり、加害者の人権は二の次である。

犯罪凶悪化の時代に死刑廃止は時代逆行である。誤審の問題は確かにあるが、これは警察や司法の改善により解決すべきである。

人の命を奪えば自身の命で贖うのが究極の罪を償う方法です。過去の冤罪は違法な取り調べや科学的な捜査技術が未熟だったことが大きな原因ですが、今は改善されているし、再審請求のハードルを下げれば、冤罪の防止になると思います。

死刑がなかつたら凶悪犯罪が増えるという意見に 賛成です。

凶悪な犯罪が増えると思うし、仮に終身刑になったとしたら、受刑者を生かしておくことに税金が使われると思うから。

終身刑を設ける。残虐死者多数非道な刑事犯は死刑対象 被害者意識を感受して

世の中には、犯罪を犯し生きる価値のない人間がいる。

大変回答のむずかしい問題ですが現時点では死刑制度がある程度の抑止力となっていると考えます。だた冤罪であった場合取り返しがつかないので再審制度の改定は望みます。

現在の裁判は犯罪の本質を明らかにして真実に従って犯罪を罰し正すという使命に至っていない。法律の解釈を巡るディベート合戦。弁護士は崇高な使命を持たず、法律を使って勝てば良いだけの弁護屋家業の輩が多い。死刑が廃止されたらそのような司法制度に掬う魔物に利用されるだけで、犯罪の撲滅、被害者を救済することが困難になるだけである。死刑制度が廃止されれば、私は人を殺し、犯罪を犯します。

死刑になりたくないなら(残忍な、或いは複数の被害者が出る)殺人事件を起こさなければ良い 殺人事件に限らず、日本は犯罪者に甘過ぎる

警察の武力行使が抑え目で、その場で射殺することがとても少ない我が国では、被害者感情を慮ると必要な制度であると思う。

制度はあっても良いと思います。冤罪の問題を取り上げていましたが、冤罪が生まれるのは、取り締まる側の問題だと思います。逮捕をした以上なにがなんでも有罪にしようとするからなのでは?今井さんが言っていた池田の事件のようなあきらかに死刑になっても良いと事件もあるのですから。遺族の苦しみもわかりますが別荘で何人の人が反省をするのでしょうか?と思います。

被害者や遺族に賠償金を支払わせる為、強制労働をさせるべきと思う。

被害者家族の心情を考えると廃止は難しい

動機によるが懲役刑で更生出来ると思えない。

殺された方が、犯人を殺してもいいのにしてほしい。許されるわけない!

犯罪抑止力のためには必要と思うから。

ZOOM 会議でもありましたが、抑止力になると思うことと。EUの死刑廃止については、往々にして「宗教感」から来ているものと個人的に思う。18世紀のヨーロッパでは、「自殺のための殺人」が横行していた。当時のキリスト教の教えでは自殺は最大の惡であり(今のような安楽死、尊厳死の概念なし)「神は人を自身の形に創造された」と語られ、自殺は自らの確固たる意志によって、神を殺すという許しがたい大罪と言われました。(日本の感覚では理解しがたい)また当時、潜在的な自殺希望者は多数いました。当時格差社会が今以上にはっきりしていていくら頑張ろうが庶民は貧困にあえぐ生き地獄状態。その状態から解放を望む手だけでは「自殺」であったが宗教上の理由で出来ず(実行すれば地獄に落ち永遠の苦しみを味わう事になる)どうすれば死ねるかと究極の選択で「殺人」を犯し「死刑(自殺出来る)」というトンデモ事件が幅を利かせていたと聞きました。歪んだ死への願望です。それ故、本末転倒になってしまったため死刑廃止という考え方が出来たとか。(ルターの宗教改革も絡んできますが)冤罪云々という話題もありましたが、池田小学校の事件や現行犯で間違いうが犯人については、個人的には判決確定した部屋の横が執行室でもいいとさえ思います!また会議中にもありました、税金が使われることに納得行かない。(そんなに高額納税してゐるわけではないが w)そこにつぎ込まれるなら別なところに使って欲しい。その昔、武家のみ認められた「仇討ち」制度があったが、死刑制度はあれの国家バージョンだと思っている。エグいかも知れませんが、死刑囚の刑が執行された後は、臓器提供もするべきだと思う。それで助かる命もある。最高の恩返しではないかな?

本当に凶悪な犯罪者には早急に死刑になって欲しい(冤罪は絶対ダメ)。私が遺族の立場だったらそう思う。

凶悪犯は更生できないと思う

凶悪な犯罪が多いため。身勝手な犯罪が多いから。

平成の死刑確定者は平成のうちに!などと前日に宴会やってた者が執行する?こんな馬鹿な奴らがトップでいる限りは絶対に反対。

ただ廃止にするのではなく、世に戻せない凶悪犯罪者たちをどうするのかという代替案を決めてからにしてほしい。
命をもって償うべき罪は絶対に存在する。死ぬべき人間が生き続けるべきではない
何をおいても遺族感情が第一の理由。自分が被害者遺族になったことを考えれば、絞首刑などではなく目を抉り生皮剥がす位の痛みを与えて殺してほしい。冤罪を生むのは別の問題としてそのものを解決すればよい。
被害者や家族の心情から必要である。
たとえ死刑でも遺族は納得できないと思うけれど、犯した罪に対する償いとして当然だと思います
間違いは司法の問題であり 例えは現在の死刑に値する犯罪が明らかな場合は特に問題とならない もしなければ、人を殺し放題になるため。
まだ決めかねています。考えれば考えるほど決めかねます。
もし自分の大切な人に危害を加える人がいれば、死んでほしいと思う。
死刑執行後 夠罪が判明した時に どの様に関係各所が対応するのか確認したい
死刑制度は究極的には廃止されるべき。しかしながら現状の社会情勢や国民意識の元では、絶対的終身刑導入を先行させ、死刑廃止の条件を整備していくべき。そのような道筋を議論することのない死刑廃止論(現在の死刑廃止論)には反対。
基本的に死刑制度に反対ではある。しかし唯一子どもへの性虐待の上の殺人や快楽的殺人は、あってはならない上、残虐的性癖であって「更生」の余地はないので、それだけは死刑もやむを得ないと思う。複数の子どもを標的にした犯罪で、私の知る限りいまだかつて冤罪も存在しない。
死刑廃止を必要とするまでの考察ができていない。
死刑にすることで遺族の感情の一部は解消される可能性もあるから。但し、取り調べにおいて、冤罪が起こらない前提ではあります。
遺族感情によるものが大きいと思う。国庫の圧迫にもつながる。死刑制度は維持しつつ、死刑判決を受けた場合は、再審要求がもう少し簡易になると良いと思う。
被害者、またその家族の様々な意見があるのは理解できますが、人間が裁く以上冤罪の懸念があるため 悩ましい。死刑に値する者は死刑。先般の冤罪を生む日本人の劣化。
被害者家族の心情
事情配慮余地のない複数名殺人の現行犯がシャバに出るのは日本の文化に馴染まない。無期犯も税金は多大に掛かるので、現代に合った受刑者の労働を考えるべき。取り調べ録画と自白妄信は改めるべき。
再審事件により、死刑を言い渡された人が逆転無罪になることを死刑制度廃止の論拠とするのは、問題がある。再審は刑事訴訟法の手続の問題であり、死刑は刑法の法定刑の問題であるため、個別に整理して論じられるべき問題だと思う。死刑制度が存続している理由は、故意で他人に対する重大な法益侵害をする者に対し死ぬことよりも重い刑罰が想定できないからであり、制度自体の存続は認められても良いと思う。
反対側の主張のとおりと考えている。
・人を殺害することは許されない。・死刑は残虐な刑罰である。・執行後は取り返しがつかない。
因果応報。ただし、1ミリでも冤罪の可能性があるのであれば徹底的に捜査・調査をするべき。
間違いで死刑にされるのはあってはならないことですが、明確な凶悪犯罪者が死刑になることは選択肢としてあっていいと思う。
死刑に相当する人が終身刑化することによりコストが嵩むから

悪い事をした人を処罰しない理由はない即刻実施すべき、生きている意味ない 生存すら迷惑 悪い事をした人の権利などあるわけない。被害にあい亡くなられた人を生き返らせ人権を取り戻してから悪い人の人権を主張するべきだと思う

判決に至るまでの過程は改善する余地が多々あるとは思うが、低年齢化する凶悪犯罪の抑制措置として、また、更生の余地のない犯罪者を処罰する最終的な措置として、必要な処置と思う。

日本に終身刑がないので、今のところやむを得ない感じがする。

消極的な反対（冤罪を生み出した警察検察裁判の問題。廃止論議に結びつけることに違和感）命をもって償うことが解決にならないことは理解出来るが、現時点では制度として廃止とは言えない。

死刑執行前日には、死刑判決を受けた受刑者が改心するた聞いたことがあります。死刑まで追い込まなければ、改心することは無いのでは無いでしょうか？改心しない受刑者は、生かしておく必要を感じません。

確かに、えん罪が恐ろしいことは重々理解します。検察、警察の捜査も信用できない。決めつけてやってもないのにやったことにされてる現実は本当にたくさんあるのだろう、と想像もします。が、思い返すのは、付属池田小事件で早々に死刑執行がなされた事が非常に印象的かつ、その時、良かった…、と思ったことは否めません。悪魔の所業としか思えない犯罪を犯した人に対して、無期懲役、終身刑で死ぬまで国が養うことも疑問だが、死刑によって死なせ生きる苦しみから逃れることは果たして罰を与えたことになるのか？とも思っています。しかし被害者やその家族を思うと、その加害者がこの世で生きてるという現実だけでも苦しいという思いがあるのでは、と思うと死刑制度はあっていいと思いました。死刑判決が出たとしても執行される人は上記にあげたような現行犯だったり、疑う余地のない人に限定し、疑わしき点が一つでもあるなら無期懲役や終身刑などにとどめるなどすればいいと思ったりしますが。被害者が死刑を望むなら死刑。死刑判決が下ったとしても被害者が望まないなら無期か終身刑にするなど、被害者の心情を第一に考えて欲しいです。

一人の命を絶った人間が生き続けられる理由が見当たらない。